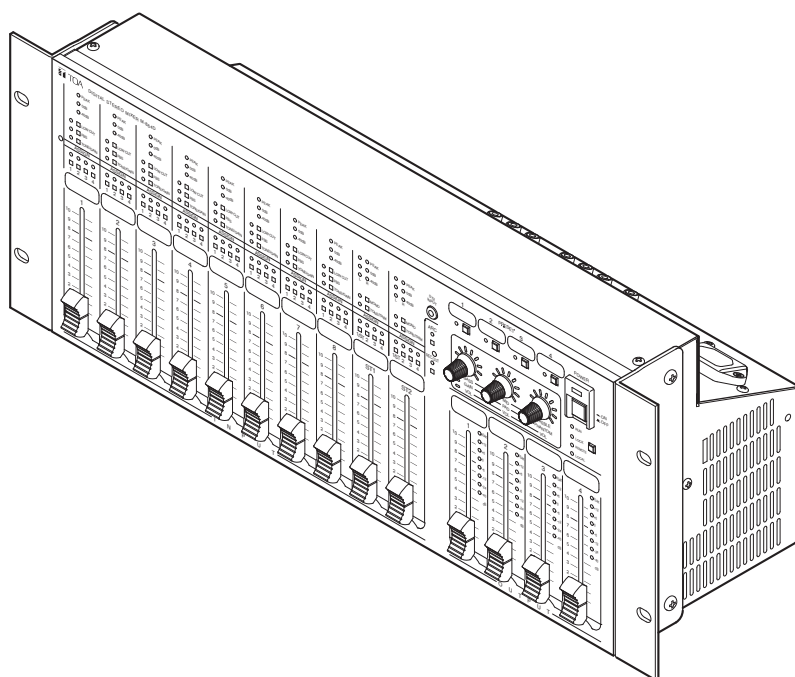
取扱説明書

デジタルステレオミキサー　M-864D

このたびは、TOA デジタルステレオミキサーをお買い上げいただき、まことにありがとうございます。
正しくご使用いただくために、必ずこの取扱説明書をお読みになり、末長くご愛用くださいますようお願い申し上げます。

TOA株式会社

目　次

安全上のご注意

● ご使用の前に、この欄を必ずお読みになり正しくお使いください。
● ここに示した注意事項は、安全に関する重大な内容を記載していますので、必ず守ってください。
● お読みになったあとは、いつでも見られる所に必ず保管してください。

表示について

ここでは、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな表示をしています。内容をよく理解してから本文をお読みください。

図記号について

行為を禁止する記号			行為を強制する記号	
分解禁止	禁　止	接触禁止	強　制	電源プラグを抜け

誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

設置・据付をするとき

水にぬらさない

本機に水が入ったりしないよう、また、ぬらさないようにご注意ください。
火災・感電の原因となります。

禁　止

指定外の電源電圧で使用しない

表示された電源電圧を超えた電圧で使用しないでください。
火災・感電の原因となります。

禁　止

電源コードを傷つけない

電源コードを傷つけたり、加工したり、熱器具に近づけたりしないでください。
また、コードの上に重いものをのせないでください。
火災・感電の原因となります。

禁　止

不安定な場所に置かない

ぐらついた台の上や傾いた所など不安定な場所に置かないでください。
落ちたり、倒れたりして、けがの原因となります。

禁　止

屋外に設置しない

本機は、屋内専用品です。
屋外に設置すると、部品の劣化により、機器が落下して、けがの原因となります。
また、雨などがかかると、感電の原因となります。

禁　止

誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

使用するとき

万一、異常が起きたら

次の場合、電源スイッチを切り、電源プラグを抜いて販売店にご連絡ください。
そのまま使用すると、火災・感電の原因となります。

- 煙が出ている、変なにおいがするとき
- 内部に水や異物が入ったとき
- 落としたり、ケースを破損したとき
- 電源コードが傷んだとき（心線の露出、断線など）
- 音が出ないとき

電源プラグを抜け

内部を開けない、改造しない

内部には電圧の高い部分があり、ケースを開けたり、改造したりすると、火災・感電の原因となります。
内部の点検・調整・修理は販売店にご依頼ください。

分解禁止

液体の入った容器や小さな金属物を上に置かない

こぼれたり、中に入った場合、火災・感電の原因となります。

禁　止

内部に異物を入れない

本機の通風口などから内部に金属類や燃えやすいものなど、異物を差し込んだり、落とし込んだりしないでください。
火災・感電の原因となります。

禁　止

雷が鳴ったらさわらない

雷が鳴り出したら、電源プラグにはさわらないでください。
感電の原因となります。

接触禁止

⚠注意

誤った取り扱いをすると、人が軽傷を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

設置・据付をするとき

ぬれた手で電源プラグをさわらない

ぬれた手で電源プラグを抜き差ししないでください。
感電の原因となることがあります。

禁　止

電源コードを引っ張らない

電源プラグを抜くときは、電源コードを引っ張らないでください。
コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。
必ずプラグを持って抜いてください。

禁　止

移動させるときは電源プラグを抜く

差し込んだまま移動させるとコードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。

電源プラグを抜け

通風口をふさがない

通風口をふさぐと内部に熱がこもり、火災の原因となることがあります。また、通風口にほこりがたまらないよう定期的に掃除をしてください。

禁　止

⚠ 注意

誤った取り扱いをすると、人が軽傷を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

設置・据付をするとき

湿気やほこりの多い場所などに置かない

湿気やほこりの多い場所、直射日光のあたる場所や熱器具の近く、油煙や湯気のあたるような場所に置かないでください。
火災・感電の原因となることがあります。

禁　止

ラックに取り付けるときの注意

次のことを必ずお守りください。
守らないと、火災・けがの原因となることがあります。

- ラックは安定したところに据え付け、アンカーボルトなどで転倒・移動防止の処置を行うこと。
- 電源コードをコンセントに接続するときは、コンセントの許容電流を超えないこと。
- 本機に付属のラック取付ねじは、当社のラック専用です。他のラックには使用しないでください。

強　制

使用するとき

AC アダプターは別売の AD-246 を使用する

（リモートコントロールパネル RC-485B4/485V1/485B8/485B4V1 使用時）
AD-246 以外のものを使用すると、火災の原因となることがあります。

強　制

電源プラグやコンセント部の掃除をする

電源プラグを差してあるコンセント部にほこりがたまると、火災の原因となることがあります。定期的にコンセント部の掃除をしてください。
また、電源プラグは根元まで差し込んでください。

強　制

お手入れの際、長期間使用しない場合の注意

お手入れのときや長期間本機をご使用にならないときは、安全のため電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。
守らないと、感電・火災の原因となることがあります。

電源プラグを抜け

概　要

本機は､自動音場補正機能（ARC)､ハウリング抑制機能（FBS)､オートミュート機能（またはダッカー機能)､トーンコントローラー､PEQ のデジタル信号処理機能を搭載したデジタルステレオミキサーです。また､トーンコントロールやゲイン調節なども本体前面パネルからの操作で行えます。
各入力にアナログゲイン調節回路も搭載しています。
EIA 規格に適合する 19 インチラックに取り付けることができる 4U サイズ*のユニットです。

＊ 1U サイズ = 44.5 mm

特　長

- 入力 22 チャンネル（モノラル 8、ステレオ 7)、出力 6 チャンネル（モノラル 4、ステレオ録音 1）のステレオミキサ―です。
- 各入力は 6 系統（OUTPUT1 ～ 4、REC OUT L/R) の出力にそれぞれ割り振ることができます。
- 音場補正フィルターを自動的に生成し、明瞭性の良い出力音に調節することができます。(ARC 機能)
- 自動的にハウリングを抑えることができます。(FBS 機能)
- モノラル入力を検知して、ステレオ入力を自動的に弱音することができます。(オートミュート機能)
- モノラル入力はアナログゲイン調節回路を搭載しています。(0 ～ +60 dB)
- モノラル入力はファンタム電源を供給することができます。(+24 V、10 mA)
- ステレオ入力はアナログトリム調節回路を搭載しています。(– ∞～ 0 dB)
- 60 mm フェーダーで音量調節ができます。
- 前面パネルのスイッチとフェーダーを使用して、本機のみで各設定を行えます。
- LAN 経由で、付属の M-864D PC ソフトウェアによる詳細設定もできます。
- 別売のリモートコントロールパネル RC-485B4/485V1/485B8/485B4V1（本書では壁リモコンと呼ぶ）と組み合わせて使用し、壁リモコンから音量調節、チャンネル ON/OFF、プリセットメモリーの呼び出しなどができます。

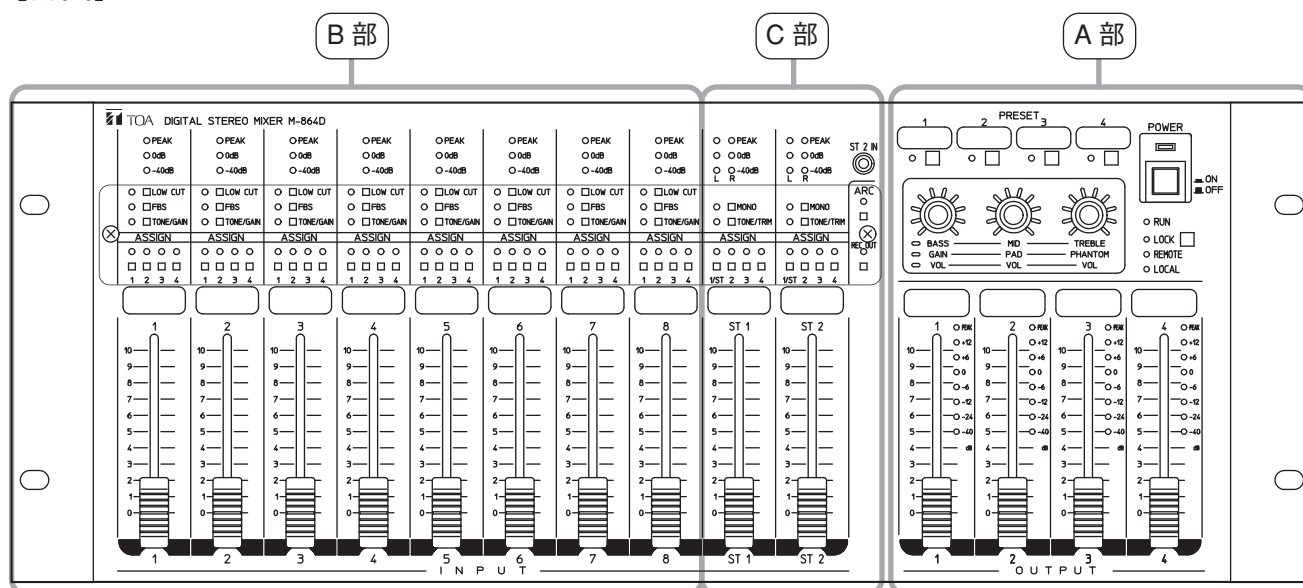
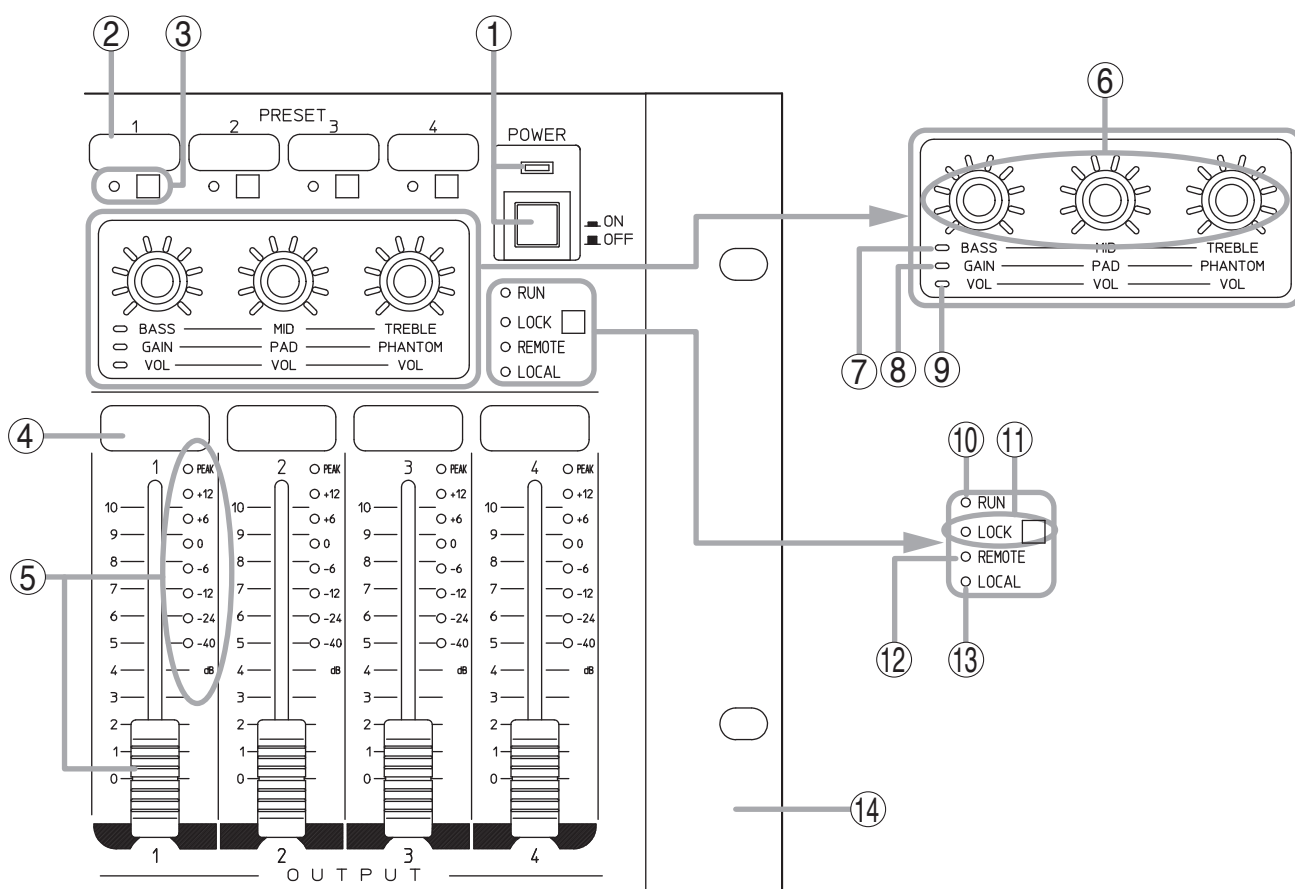
使用上のご注意

- 付属の電源コードは本機専用です。本機以外の機器に使用しないでください。
- 周囲温度が 0 ～ 40 ℃、湿度が 90 %以下（ただし結露しないこと）の場所で使用してください。
- 本機は精密機器ですので、強い衝撃や振動は避けてください。故障の原因となります。
- 本機を清掃するときには、必ず電源を切ってから、乾いた布でふいてください。また、ひどい汚れは中性洗剤をしみこませた布を使用してください。ベンジン・シンナー・アルコール類・化学ぞうきんなどは絶対に使用しないでください。変形や変色の原因になります。

設置上のご注意

- 設置・接続は必ず、電源プラグを電源につなぐ前に行ってください。また、設置・接続を外す場合は、必ず電源プラグを電源から切り離してから行ってください。
- 機器は電源コンセントの近くに設置し、電源プラグへ容易に手が届くようにしてください。

各部の名称とはたらき

［前面］

● A 部

1. 電源スイッチ、電源表示灯［POWER］（緑）
スイッチを押すと電源が入り、表示灯が点灯します。もう一度押すと電源が切れ、表示灯が消灯します。

2. プリセットメモリー名称表示部
プリセットメモリーの内容や名称などをテープに印刷するなどして、貼り付けます。

3. プリセットメモリーキー、プリセットメモリー表示灯［PRESET 1 ～ 4］（緑）
プリセットメモリーに保存されている設定を呼び出したり、現在のパラメーターを保存するときにキーを使用します。
プリセットメモリーがキーで選択されているときに表示灯が点灯します。
（☞ P. 38）

4. 出力名称表示部
出力名称をテープに印刷するなどして、貼り付けます。

5. 出力音量フェーダー、出力レベル表示灯［OUTPUT 1 ～ 4］（緑、橙、赤）
出力音量を調節します。
フェーダーを上げると音量が大きくなり、下げると音量が小さくなります。
出力信号レベルに応じて、−40、−24、−12、−6、0、+6、+12、PEAK の各表示灯が点灯します。
出力レベルはポストフェーダーのレベル値です。
PEAK 表示灯が常時点灯するときは、音量を下げてください。

6. 調節つまみ、設定値表示灯（緑、橙）
トーン調節モード、ゲイン調節モード、またはトリム調節モードのときに、該当する調節を行います。各調節モードへの切り換えは、トーン／ゲイン切換スイッチ（18）またはトーン／トリム切換スイッチ（25）で行います。（☞ P. 17、P. 20）
また、録音出力の音量調節も行います。（☞ P. 26）
設定値表示灯の状態は、モードにより点灯、点滅のしかたが異なります。詳しくは各機能の説明をお読みください。

7. トーン調節モード表示灯［BASS、MID、TREBLE］（緑）
トーン調節モードのときに点灯します。

8. ゲイン調節モード表示灯［VOL、PAD、PHANTOM］（橙）
ゲイン調節モードのときに点灯します。

9. トリム調節モード表示灯［VOL、VOL、VOL］（橙）
トリム調節モード時または録音出力スイッチ（31）を押したときに点灯します。

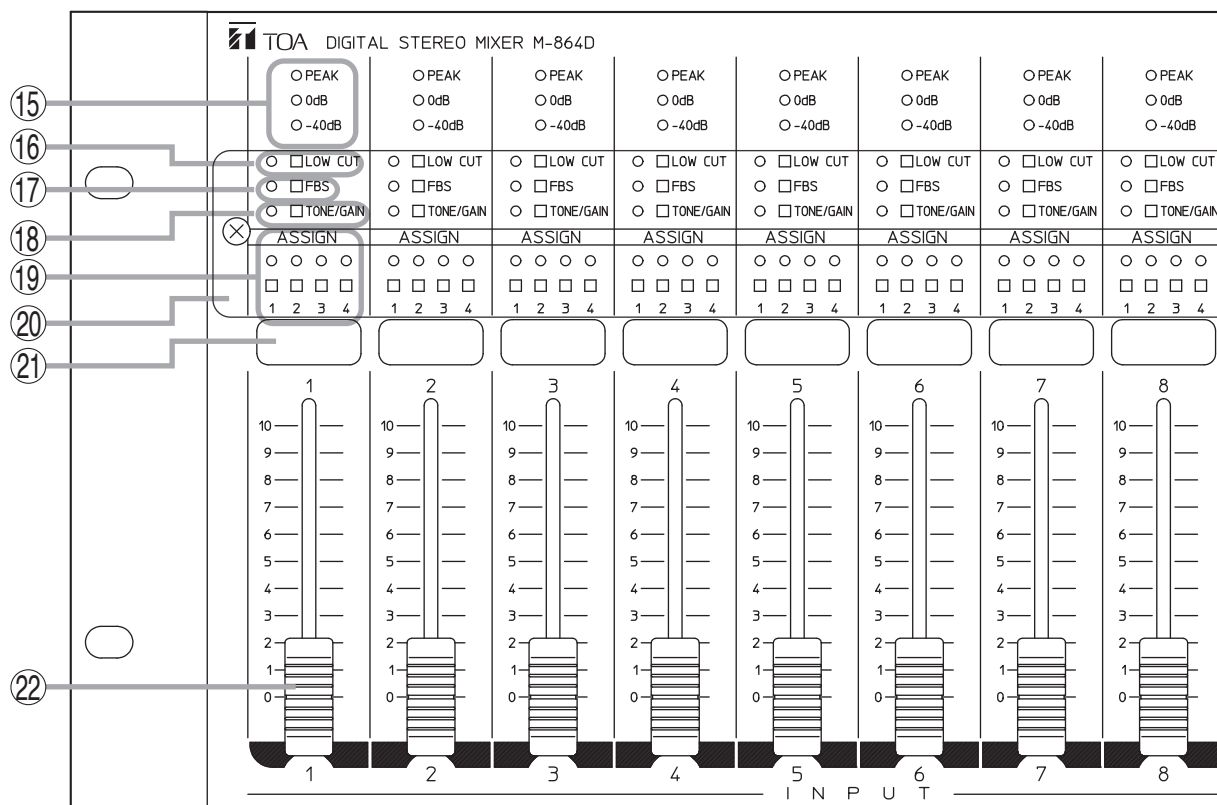
10. 動作状態表示灯［RUN］（緑、橙、赤）
本機の動作状態を表します。
緑色点灯：正常動作状態
橙色点滅：内蔵ファン異常
赤色点滅：デジタル信号処理（DSP）の動作異常
消灯　　：CPU 異常

11. システムロックキー／システムロック表示灯［LOCK］（橙）
本機前面パネルからの操作を禁止したいときにこのキーを押します。（☞ P. 40）
押すと表示灯が点灯します。
禁止する操作は、付属の M-864D PC ソフトウェアで設定します。
初期設定では、対象となるすべての機能を禁止できるようになっています。

12. リモート表示灯［REMOTE］（緑）
パソコン、壁リモコン、外部制御機器からの操作中に緑色に点灯します。

13. ローカル表示灯［LOCAL］（緑）
本機前面パネルからの操作が可能なときに緑色に点灯します。

14. 取付金具
EIA 規格に適合するラックに取り付けることができます。

● B 部

15. 入力レベル表示灯［–40 dB、0 dB、PEAK］（緑、赤）

入力信号レベルに応じて緑色（PEAK は赤色）に点灯します。

入力レベルはプリフェーダーのレベル値です。PEAK 表示灯が常時点灯するときは、入力ゲインの調節をしてください。（☞ P. 17「ファンタム電源、PAD、ゲインの設定のしかた」）

16. ローカットスイッチ／ローカット表示灯［LOW CUT］（緑）

スイッチを押すと表示灯が点灯し、内部のローカットフィルターが ON になります。

カットオフ周波数：100 Hz *

* 付属の M-864D PC ソフトウェアを使えば 20 Hz ～ 20 kHz の範囲で調節できます。（☞ M-864D ソフトウェア取扱説明書）

17. ハウリング抑制スイッチ、ハウリング抑制表示灯［FBS］（緑）

スイッチを押すとハウリング抑制機能が働き、表示灯が点灯します。（☞ P. 28）

18. トーン／ゲイン切換スイッチ、トーン／ゲイン調節モード表示灯［TONE/GAIN］（緑、橙）

スイッチを押すたびに、待機モード、トーン調節モード、ゲイン調節モードを切り換えます。

待機モードのときは表示灯が消灯、トーン調節モードのときは緑色に点灯、ゲイン調節モードのときは橙色に点灯します。

19. アサインスイッチ、アサイン表示灯［ASSIGN 1 ～ 4］（緑）

各チャンネルのモノラル入力音量フェーダー（22）で調節された後の信号の送出先を選択するスイッチです。

スイッチを押すと表示灯が点灯し、モノラル入力 1 ～ 8 の信号を該当のバス（1 ～ 4）へ出力します。

20. 保護カバー（付属品）

ローカットスイッチ（16）、アサインスイッチ（19）などの設定を保護するカバーです。

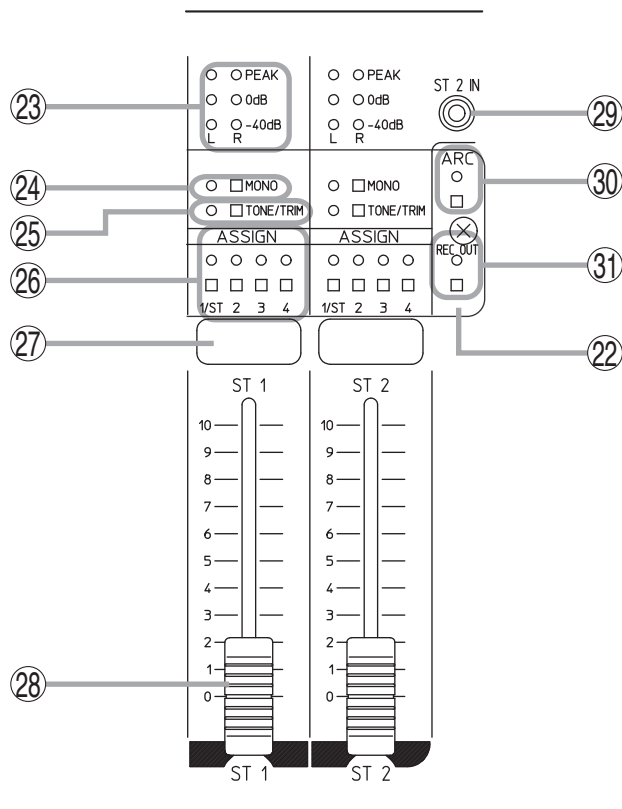
21. 入力名称表示部

入力名称をテープに印刷するなどして、貼り付けます。

22. モノラル入力音量フェーダー［INPUT 1 ～ 8］

モノラル入力の音量を調節します。

上げると音量が大きくなり、下げると音量が小さくなります。

● C 部

23. 入力レベル表示灯［-40 dB、0 dB、PEAK］（緑、赤）

入力信号レベルに応じて緑色（PEAK時のみ赤色）に点灯します。
入力レベルはプリフェーダーのレベル値です。
PEAK表示灯が常時点灯するときは、トリムの調節をしてください。（☞ P. 20「トリム調節のしかた」）
ST1 Lチャンネルの入力レベル表示については、STEREO INPUT 1 Lチャンネルの3入力（A、B、C）の合計レベルを表示します。
ST1 Rチャンネルの入力レベル表示もRチャンネルの3入力の合計レベルを表示します。
ST2のLチャンネル、Rチャンネルも同様のレベル表示となります。

24. モノミックススイッチ、モノミックス表示灯［MONO］（緑）

スイッチを押すと表示灯が点灯し、L/Rステレオ入力信号をミキシング（モノラル）して出力します。（☞ P. 24）

25. トーン／トリム切換スイッチ、トーン／トリム調節モード表示灯［TONE/TRIM］（緑、橙）

スイッチを押すたびに、待機モード、トーン調節モード、トリム調節モードを切り換えます。
待機モードのときは表示灯が消灯、トーン調節モードのときは緑色に点灯、トリム調節モードのときは橙色に点灯します。

26. アサインスイッチ（ステレオ）、アサイン表示灯［1～4］（緑）

各チャンネルのステレオ入力音量フェーダー（28）で調節された後の信号の送出先を選択するスイッチです。
スイッチを押すと表示灯が点灯し、ステレオ入力1～2の信号を該当のバス（1～4）へ出力します。

1/ST：出力1からLチャンネル信号の出力
2　：出力2からRチャンネル信号の出力
3　：出力3からL+Rチャンネル信号の出力
4　：出力4からL+Rチャンネル信号の出力

※ 1/STと2については、あわせてモノミックススイッチ（24）を押すとサミング出力になり、それぞれ出力1と2へL+Rチャンネル信号が出力されます。

27. 入力名称表示部

入力名称をテープに印刷するなどして、貼り付けます。

28. ステレオ入力音量フェーダー［ST 1～2］

ステレオ入力の音量を調節します。
上げると音量が大きくなり、下げると音量が小さくなります。

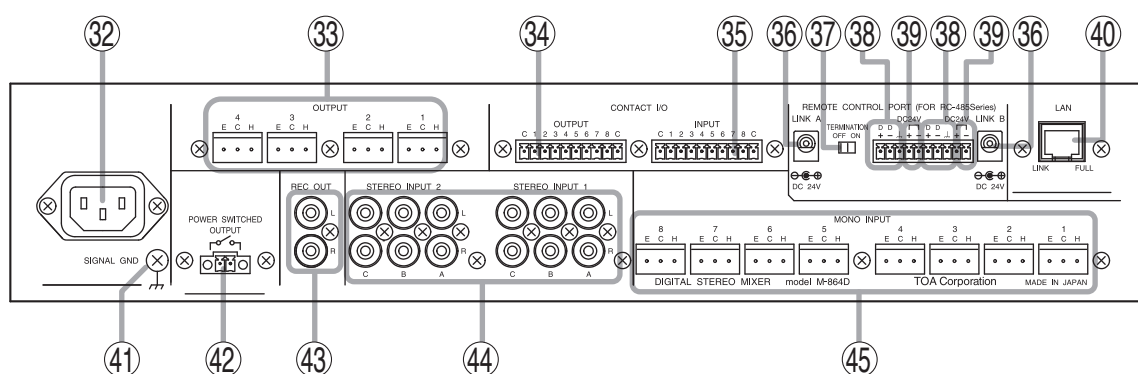
29. 前面ステレオ入力2端子［ST 2 IN］

−10 dB*、10 kΩ、不平衡型、ステレオミニジャック。
ステレオ入力2に並列接続されており、入力レベルはステレオ2入力音量フェーダー（28）で調節します。

＊0 dB = 0.775 V

30. ARC スイッチ、ARC 動作表示灯［ARC］（緑）
自動音場補正機能（ARC）を使用するときに、このスイッチを押します。
スイッチを 3 秒間押し続けると、ARC 測定が開始され、表示灯が点滅します。測定が完了すると ARC フィルターが設定され、表示灯が点灯します。（☞ P. 29）

31. 録音出力スイッチ、録音出力表示灯（緑）［REC OUT］
スイッチを押すと、表示灯が点灯し、録音出力の音量調節が調節つまみ（6）で可能になります。（☞ P. 26）

［後面 端子部］

32. AC 電源入力端子
付属の本機専用コードで AC 電源に接続します。

33. 出力端子［OUTPUT 1 〜 4］
+4 dB *、600 Ω、平衡型、着脱式ターミナルブロック。
アサインスイッチ（19、26）でバス 1 〜 4 に割り付けられた入力チャンネルの信号がそれぞれの出力端子から出力されます。
バス 1 〜 4 は出力端子 1 〜 4 に対応しています。

34. 接点出力端子［OUTPUT C、1、2、3、4、5、6、7、8、C］
着脱式ターミナルブロックの 8 回路接点出力端子です。
各接点に設定する機能の割り付けは、付属の M-864D PC ソフトウェアを使ってパソコンで行います。

35. 接点入力端子［INPUT C、1、2、3、4、5、6、7、8、C］
着脱式ターミナルブロックの 8 回路接点入力端子です。
各接点に設定する機能の割り付けは、付属の M-864D PC ソフトウェアを使ってパソコンで行います。

36. AC アダプター入力［LINK A、LINK B］
壁リモコンに DC24 V 電源を供給する AC アダプター（別売の AD-246）を接続します。

37. ターミネーションスイッチ［TERMINATION ON、OFF］
120 Ω並列接続終端の ON/OFF ができます。

38. データライン接続端子［D ＋、D −］
壁リモコンからの通信ラインを接続します。極性を合わせてください。

39. DC24 V 出力端子［DC 24 V、＋、−］
壁リモコンに DC24 V 電源を供給します。

40. LAN ポート
LAN 接続されているスイッチングハブに LAN ケーブルで接続します。
本機の IP アドレスの初期値は「192.168.14.1」です。設定は、付属の M-864D PC ソフトウェアを使ってパソコンで行います。
- LINK 表示灯
  リンク確立時、データ送受信時に点灯
- FULL 表示灯
  全二重通信（Full Duplex）動作時に点灯

41. 機能アース端子
本機に外部機器を接続してノイズが多いときは、この端子と外部の機能アース端子を接続してください。ノイズが少なくなることがあります。
※ 安全アースではありません。

42. リモート出力端子［POWER SWITCHED OUTPUT］
本機の電源スイッチを入れるとメイク接点が出力されます。
接点仕様：24 V、100 mA

43. 録音出力端子［REC OUT L、R］
−10 dB *、1 kΩ、不平衡型、RCA ジャック。
付属の M-864D PC ソフトウェアで選択されたバス 1 〜 4 のミキシング信号が出力されます。

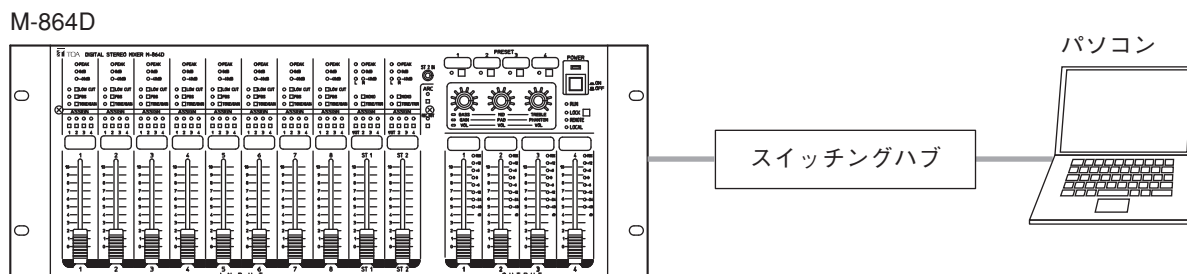
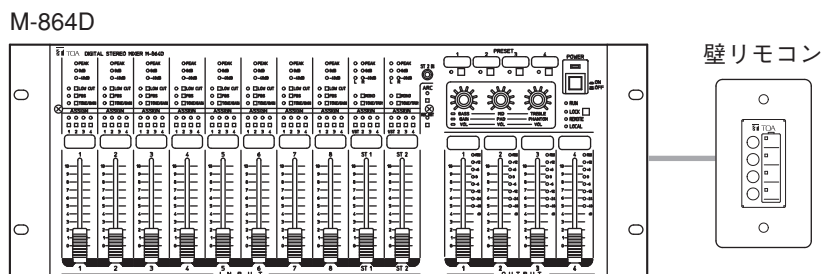
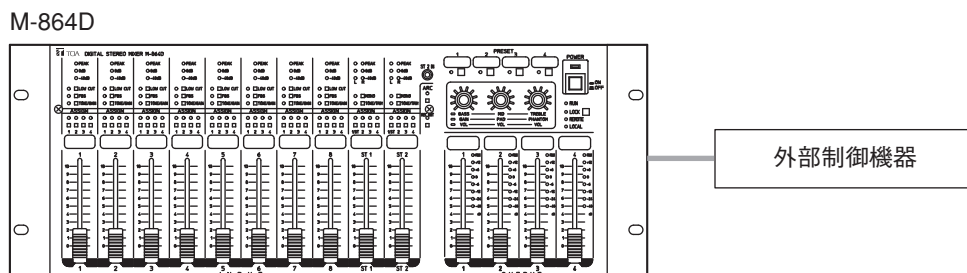
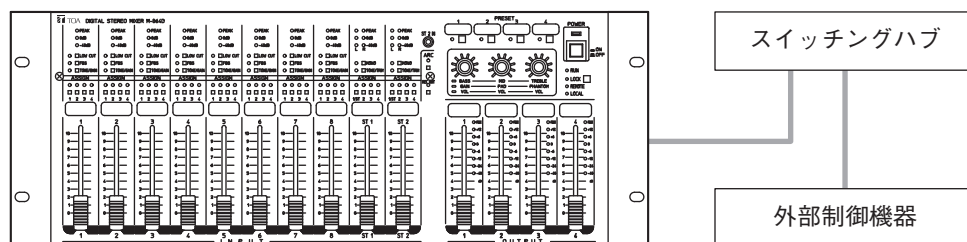
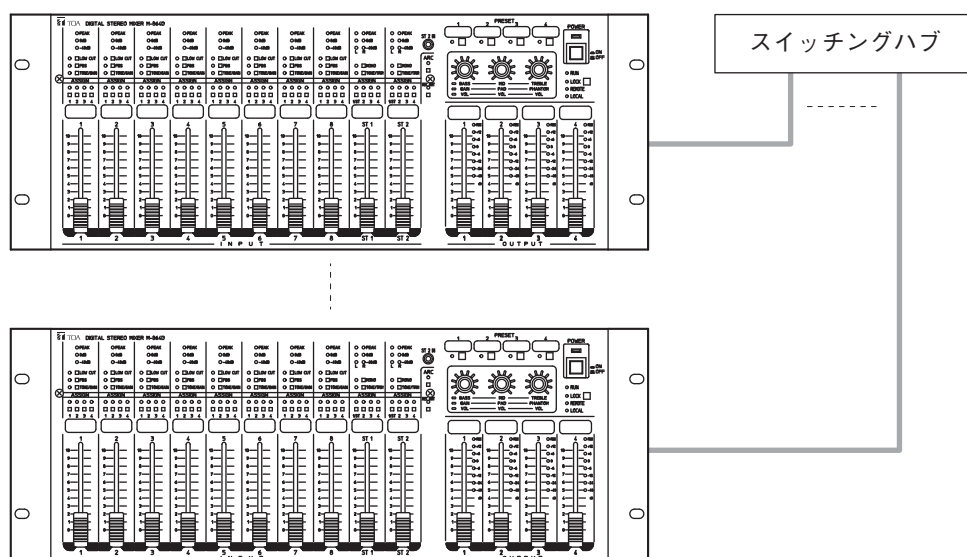
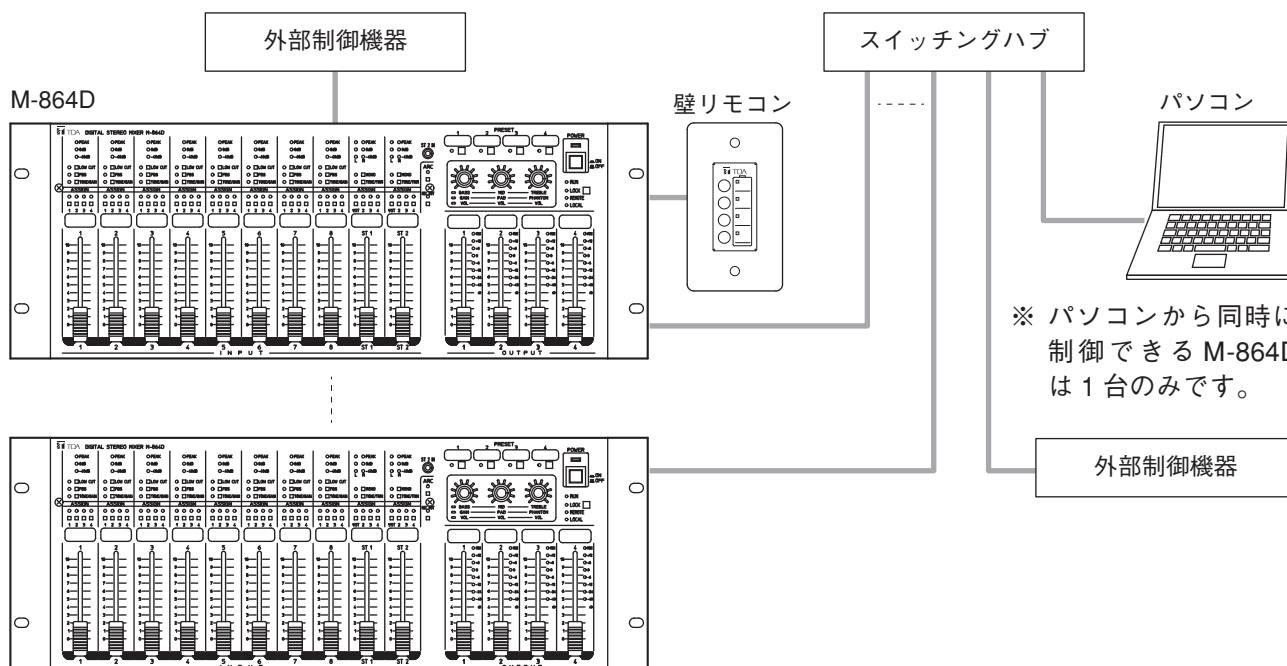
44. ステレオ入力端子［STEREO INPUT 1、2　A、B、C］
−10 dB＊、10 kΩ、不平衡型、RCA ジャック。
（☞ P. 55「ブロックダイヤグラム」）

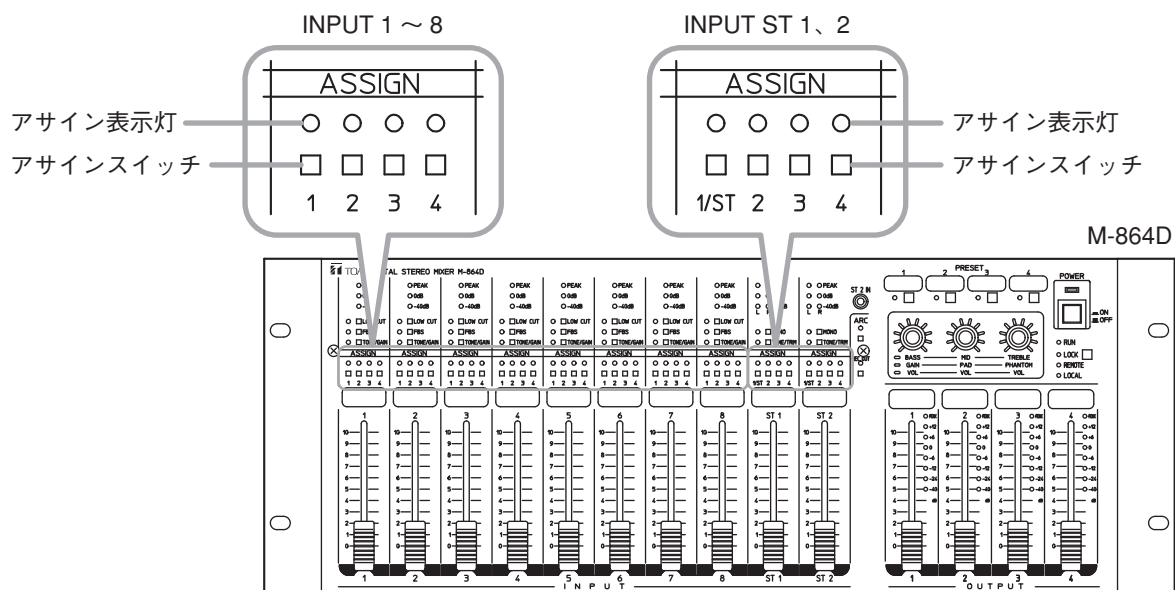
45. モノラル入力端子［MONO INPUT 1 ～ 8　E、C、H］
−56 ～ +4 dB＊、10 kΩ （PAD ON）/ 7 kΩ （PAD OFF）、平衡型、着脱式ターミナルブロック。
入力感度は、調節モードがゲイン調節モードのときに調節つまみ(6)で切り換えることができます。

＊ 0 dB = 0.775 V

システム構成例

M-864D1 台で使用できるほか、パソコン、外部制御機器などと組み合わせて使用できます。

● M-864D 本体とパソコンを組み合わせて使用します。

● M-864D 本体と指定の壁リモコンを組み合わせて使用します。

● M-864D 本体と外部制御機器を組み合わせて使用します。

● M-864D 本体と LAN（イーサネット）経由での外部制御機器を組み合わせて使用します。

● M-864D を複数台（最大 5 台）組み合わせて使用します。
このとき、プリセットメモリーの切り換えが最大 5 台連動します。

● M-864D 複数台（最大 5 台）と直接接続する外部制御機器、指定の壁リモコン、および LAN 経由によるパソコン、外部制御機器を組み合わせて使用します。

アサイン設定のしかた

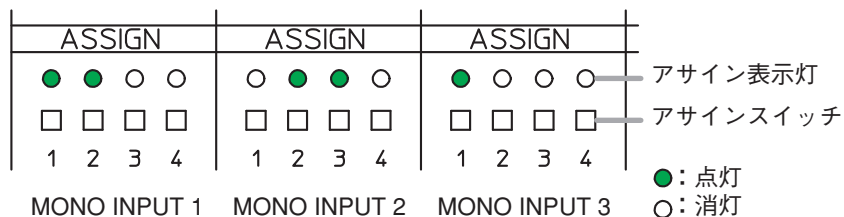
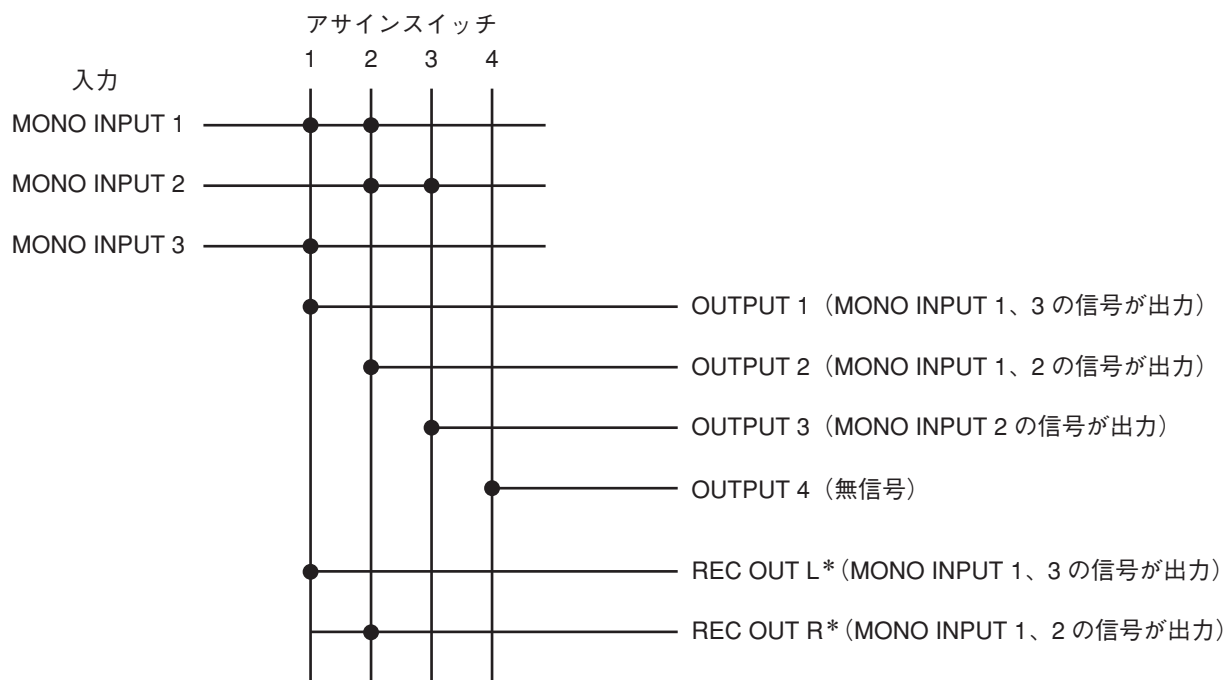
各入力を 4 チャンネルの出力（OUTPUT 1、2、3、4）に割り振ることができます。

■ INPUT 1 ～ 8 のアサインスイッチ

それぞれのモノラル入力を出力 1 ～ 4 に割り振ることができます。
アサインスイッチ 1 を押すと、該当の表示灯が点灯し、入力が OUTPUT 1 に割り振られます。アサインスイッチ 2 ～ 4 も同様な働きをします。

アサインスイッチ	出力先
1	OUTPUT 1
2	OUTPUT 2
3	OUTPUT 3
4	OUTPUT 4

［アサイン設定の例］

入力のアサインスイッチを下記のように設定します。

入力	アサインスイッチ
MONO INPUT 1	1、2
MONO INPUT 2	2、3
MONO INPUT 3	1

ASSIGN　ASSIGN　ASSIGN
1 2 3 4　1 2 3 4　1 2 3 4
MONO INPUT 1　MONO INPUT 2　MONO INPUT 3

アサイン表示灯
アサインスイッチ

●：点灯
○：消灯

※ アサインスイッチは先の細いもので押してください。

信号の流れは下図のようになります。

＊ REC OUT のアサインは M-864D PC ソフトウェアで設定します。
デフォルトでは、次のとおり設定されています。
REC OUT L：アサインスイッチ 1
REC OUT R：アサインスイッチ 2

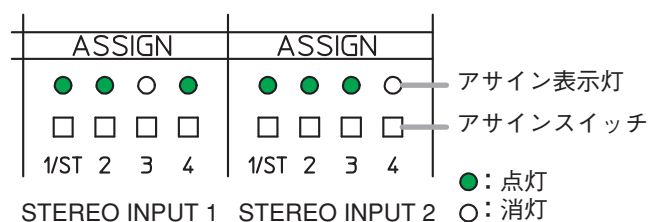
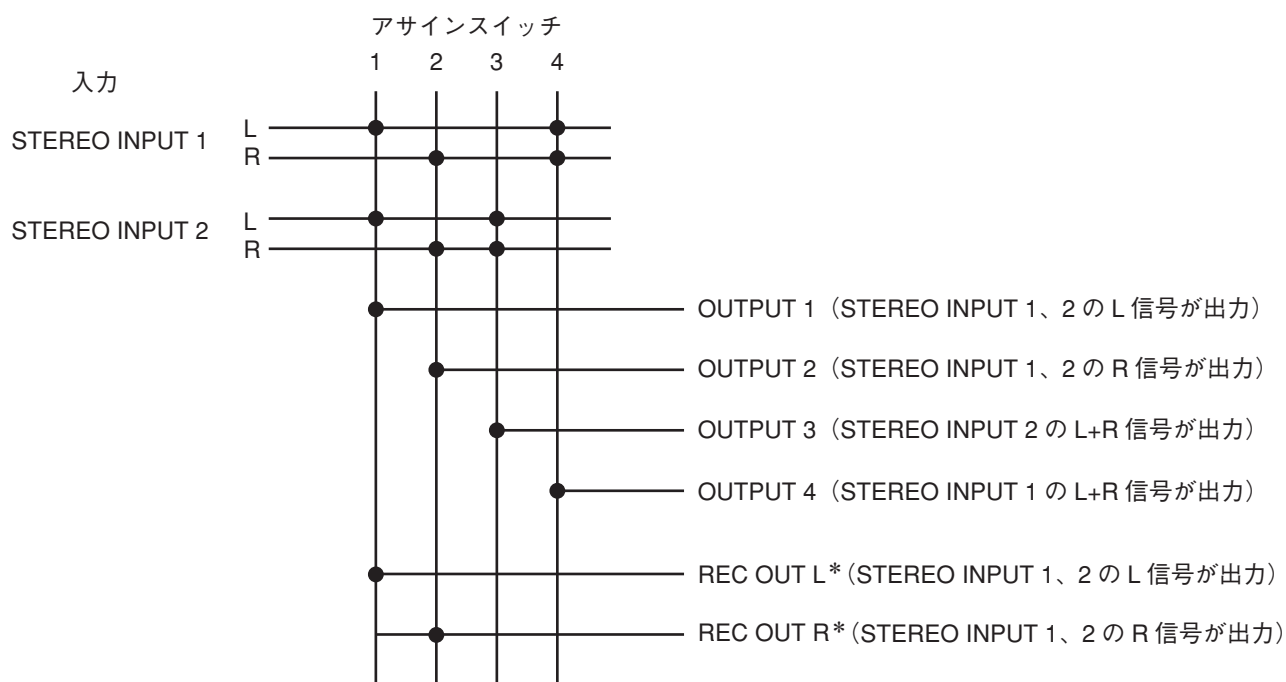
■ INPUT ST1、ST2 のアサインスイッチ

ステレオ入力 1、2 を出力 1 〜 4 に割り振ることができます。
各アサインスイッチを押すと、該当の表示灯が点灯し、下表のように入力信号が割り振られます。

アサインスイッチ	出力先	信号
1	OUTPUT 1	L チャンネル
2	OUTPUT 2	R チャンネル
3	OUTPUT 3	L+R チャンネル
4	OUTPUT 4	

［アサイン設定の例］

入力のアサインスイッチを下記のように設定します。

入力	アサインスイッチ
STEREO INPUT 1	1、2、4
STEREO INPUT 2	1、2、3

※ アサインスイッチは先の細いもので押してください。

信号の流れは下図のようになります。

* REC OUT のアサインは M-864D PC ソフトウェアで設定します。
デフォルトでは、次のとおり設定されています。
REC OUT L：アサインスイッチ 1
REC OUT R：アサインスイッチ 2

ファンタム電源、PAD、ゲインの設定のしかた

モノラル入力 1 ～ 8 は、接続する機器に合わせて入力感度やファンタム電源 ON/OFF を設定できます。
これらの設定は、本機をゲイン調節モードに切り換え、調節つまみで行います。

■ 設定の手順

1 本機をゲイン調節モードに切り換える。

2 接続する機器によって、次のとおりに設定する。（☞ 次ページ）

接続する機器	設定	
	ファンタム電源	PAD
ダイナミックマイク	OFF	OFF
コンデンサーマイク（ファンタム電源要の場合）	ON	OFF
ライン入力機器	OFF	ON

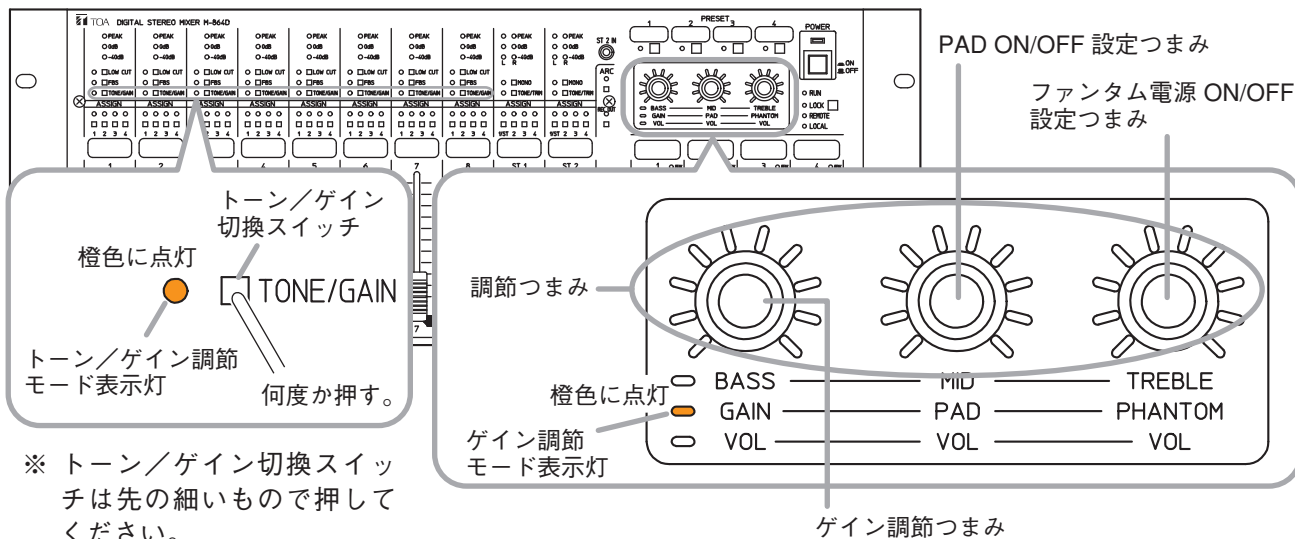
3 ゲインを調節する。（☞ 次ページ）

■ 設定のしかた

● ゲイン調節モードに切り換える

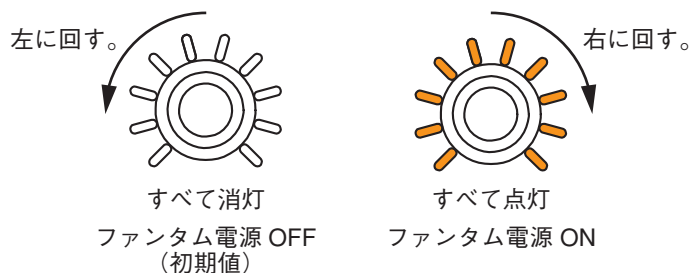
調節したいモノラル入力チャンネルのトーン／ゲイン切換スイッチをトーン／ゲイン調節モード表示灯が橙色に点灯するまで何度か押す。

ゲイン調節モード表示灯が橙色に点灯します。

※ トーン／ゲイン切換スイッチは先の細いもので押してください。

● ファンタム電源の ON/OFF を設定する

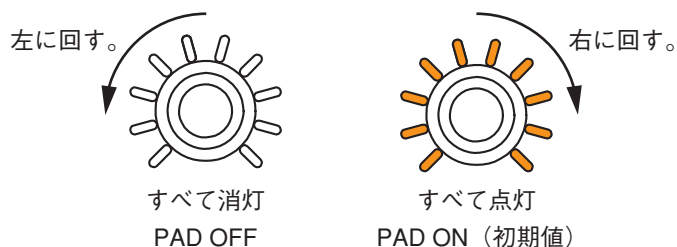
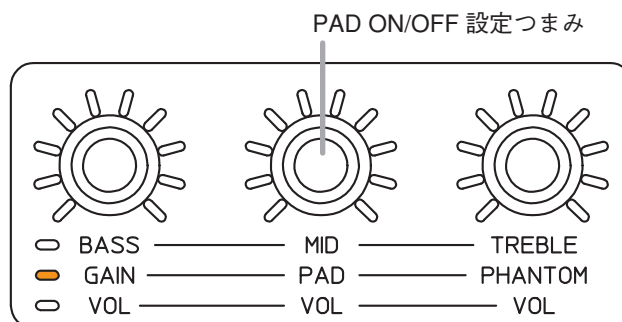
モノラル入力 1 ～ 8 のファンタム電源の ON/OFF を設定することができます。
トーン／ゲイン調節モード表示灯が橙色に点灯しているチャンネルに対して、ファンタム電源 ON/OFF 設定つまみを右に回すと ON、左に回すと OFF に設定できます。

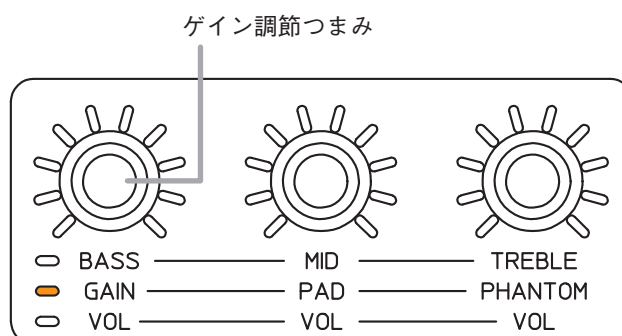
初期値　　　　　：OFF
ファンタム電源：+24 V、10 mA

ファンタム電源が ON のときは、調節つまみの設定値表示灯はすべて点灯、OFF のときはすべて消灯になります。

ご注意

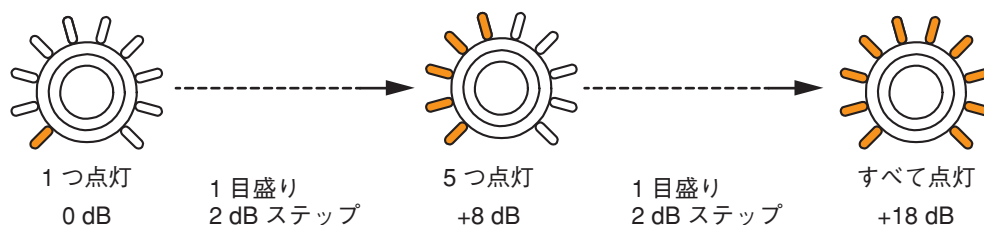
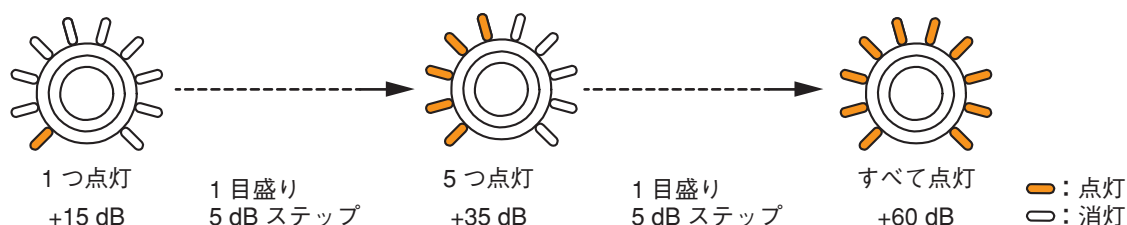
ファンタム電源の供給が必要なマイクを使用する場合のみ ON にしてください。
ON のとき、ファンタム電源を必要としない機器を接続すると、本機および接続機器故障の原因となります。

● PAD の ON/OFF を設定する

モノラル入力 1 ～ 8 の PAD の ON/OFF を設定することができます。
入力レベルが大きい場合に、PAD を ON にします。
PAD を ON にすることで、入力レベルの減衰回路が ON になり、入力クリップを防ぐことができます。
トーン／ゲイン調節モード表示灯が橙色に点灯しているチャンネルに対して、PAD ON/OFF 設定つまみを右に回すと ON、左に回すと OFF に設定できます。（初期値：ON）
PAD が ON のときは、調節つまみの設定値表示灯はすべて点灯、OFF のときはすべて消灯になります。

● ゲインを調節する

モノラル入力 1 ～ 8 のゲインを調節することができます。
ゲイン調節つまみを右に回すと、トーン／ゲイン調節モード表示灯が橙色に点灯しているチャンネルのゲインが増幅します。
（初期値、調節範囲は次ページ参照）

初期値	PAD ON 時　：0 dB
	PAD OFF 時：+15 dB
調節範囲	PAD ON 時　：0 ～ +18 dB、1 dB ステップ
	PAD OFF 時：+15 ～ +60 dB、1 dB ステップ

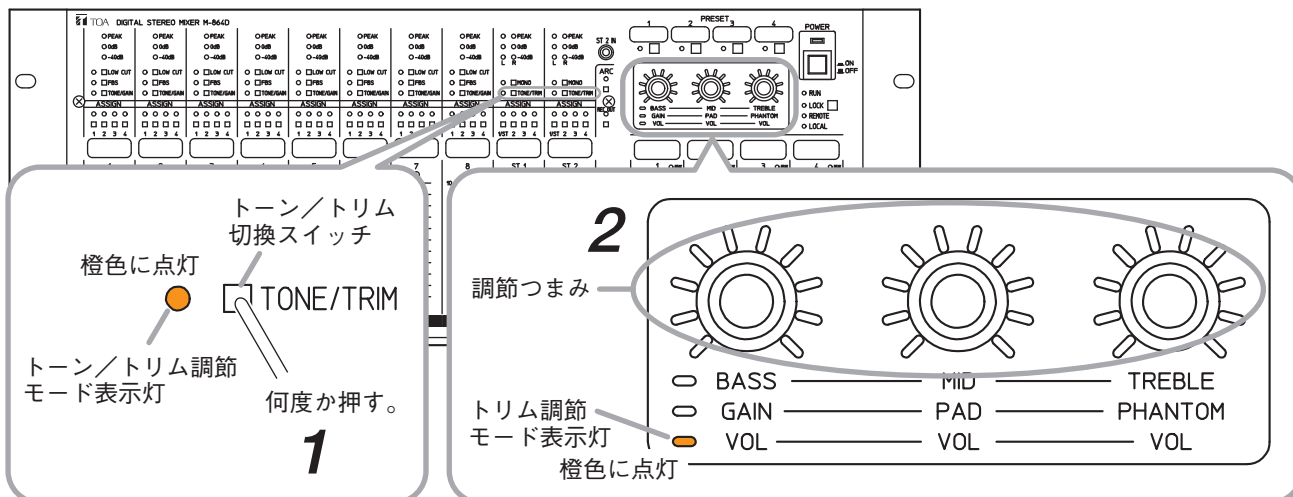
調節つまみの設定値表示灯とゲインの関係は次のとおりです。

［PAD ON 時］

［PAD OFF 時］

トリム調節のしかた

ステレオ入力 1、2 の入力レベルを調節することができます。
入力機器の出力レベルにばらつきがある場合に、この機能で入力レベルをそろえることができます。
ステレオ入力 1、2 の A、B、C それぞれの入力を個別に調節できます。

1 トリム調節モードに切り換える。

入力レベルを調節したいステレオ入力チャンネルのトーン／トリム切換スイッチをトーン／トリム調節モード表示灯が橙色に点灯するまで何度か押してください。
トリム調節モード表示灯が橙色に点灯します。

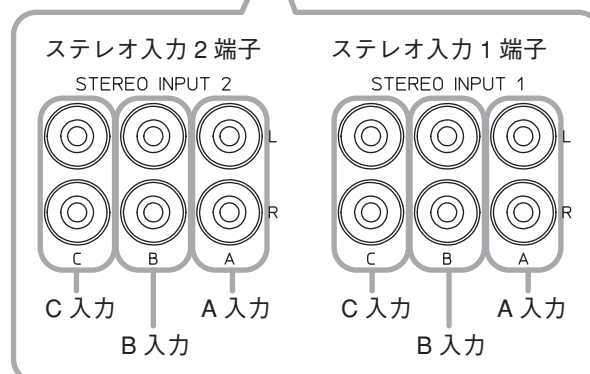
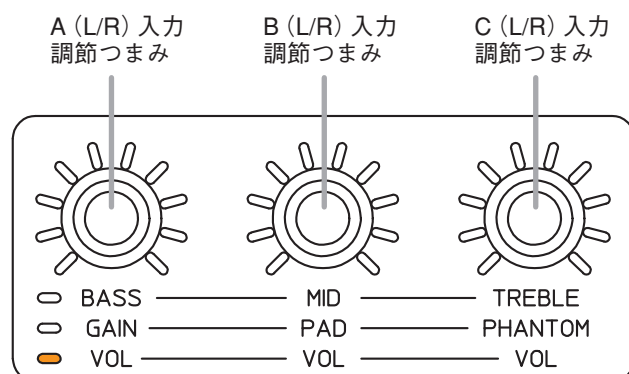
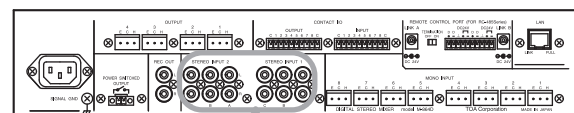
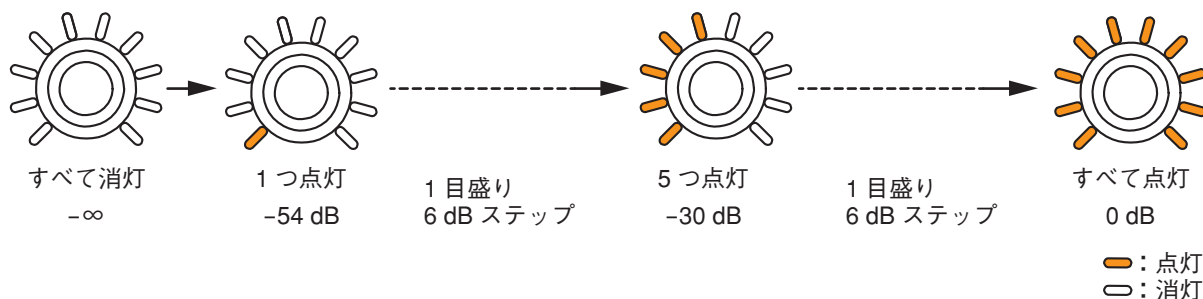
M-864D

※ トーン／トリム切換スイッチは先の細いもので押してください。

2 各調節つまみを回してゲインを調節する。

ステレオ入力の A（L/R）入力：左の調節つまみを回します。
ステレオ入力の B（L/R）入力：真中の調節つまみを回します。
ステレオ入力の C（L/R）入力：右の調節つまみを回します。

トーン／トリム調節モード表示灯が橙色に点灯しているチャンネルのゲインが調節できます。

初期値	−18 dB
調節範囲	− ∞、−54 〜 0 dB、1 dB ステップ

M-864D 後面

調節つまみの設定値表示灯とゲインの関係は次のとおりです。

トーン調節のしかた

各モノラル入力 1 〜 8 および各ステレオ入力 1、2 の音質を調節することができます。

1 トーン調節モードに切り換える。

1-1 モノラル入力 1 〜 8 の場合

各モノラル入力のトーン／ゲイン切換スイッチをトーン／ゲイン調節モード表示灯が緑色に点灯するまで何度か押してください。
トーン調節モード表示灯が緑色に点灯します。

1-2 ステレオ入力 1、2 の場合

各ステレオ入力のトーン／トリム切換スイッチをトーン／トリム調節モード表示灯が緑色に点灯するまで何度か押してください。
トーン調節モード表示灯が緑色に点灯します。

トーン／ゲイン切換スイッチ
緑色に点灯
TONE/GAIN
トーン／ゲイン調節モード表示灯
1-1 何度か押す。

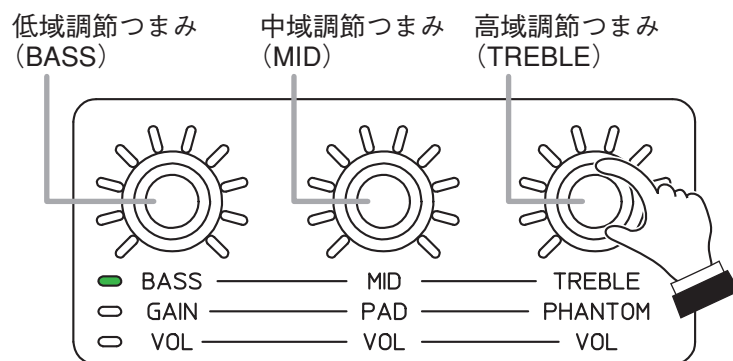
トーン／トリム切換スイッチ
緑色に点灯
TONE/TRIM
トーン／トリム調節モード表示灯
1-2 何度か押す。

M-864D

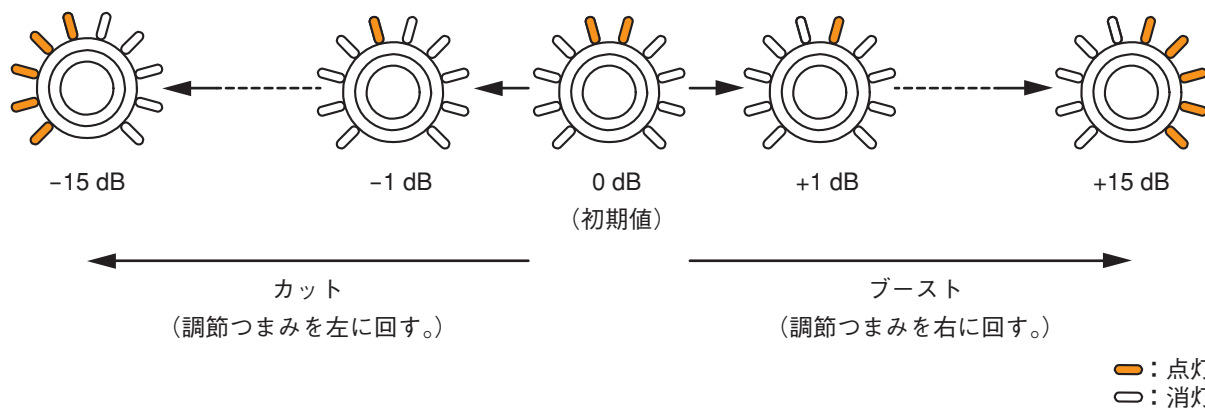
※ トーン／ゲイン切換スイッチおよびトーン／トリム切換スイッチは先の細いもので押してください。

2
調節つまみ
緑色に点灯
トーン調節モード表示灯

BASS	MID	TREBLE
GAIN	PAD	PHANTOM
VOL	VOL	VOL

2 低域、中域、高域それぞれの調節つまみを回して、音質を調節する。

調節つまみ	初期値	調節範囲
低域調節つまみ（BASS）	ローシェルビングフィルター、 中心周波数　：80 Hz GAIN　：0 dB	−15 ～ +15dB、1 dB ステップ
中域調節つまみ（MID）	パラメトリックイコライザー、 中心周波数　：800 Hz GAIN　：0 dB Q　：1.8	−15 ～ +15dB、1 dB ステップ
高域調節つまみ（TREBLE）	ハイシェルビングフィルター、 中心周波数　：12 kHz GAIN　：0 dB	−15 ～ +15dB、1 dB ステップ

※ 上記以外のフィルター設定は、付属の M-864D PC ソフトウェアで行うことができます。
詳細は M-864D ソフトウェア取扱説明書をお読みください。

調節つまみの設定値表示灯とゲインの関係は以下のとおりです。（BASS、MID、TREBLE 共通）

ローカットフィルターの設定のしかた

MONO INPUT 1 ～ 8 にローカットフィルターを設定することができます。

付属の M-864D PC ソフトウェアを使って設定することもできます。
詳しくは別冊のソフトウェア取扱説明書をお読みください。

■ ローカットフィルターとは

不要な低音部分を減衰させ、聞きやすい音にするためのフィルターです。
本機のローカットフィルターのカットオフ周波数は次のとおりです。

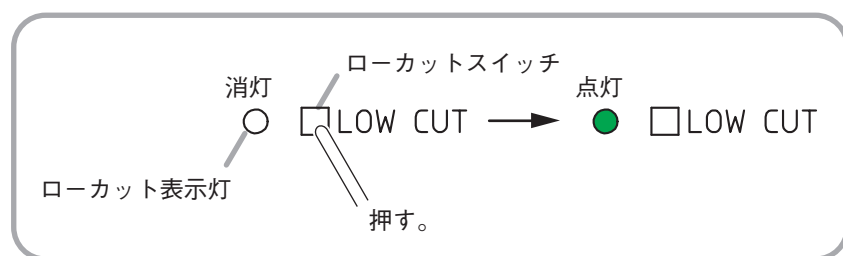
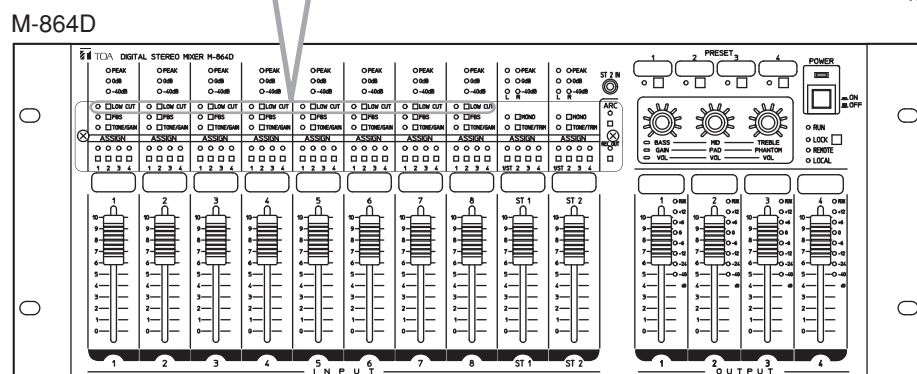
初期値	100 Hz
可変値*	20 Hz ～ 20 kHz

* 付属の M-864D PC ソフトウェアでのみ調節可能

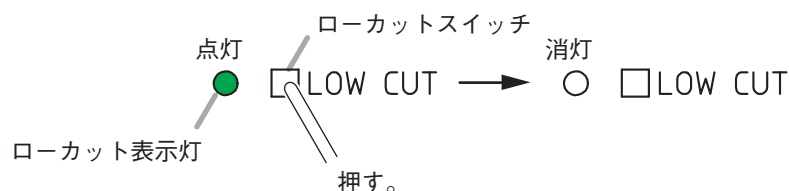
■ ローカットフィルターを設定する

● ローカットフィルターを ON にする

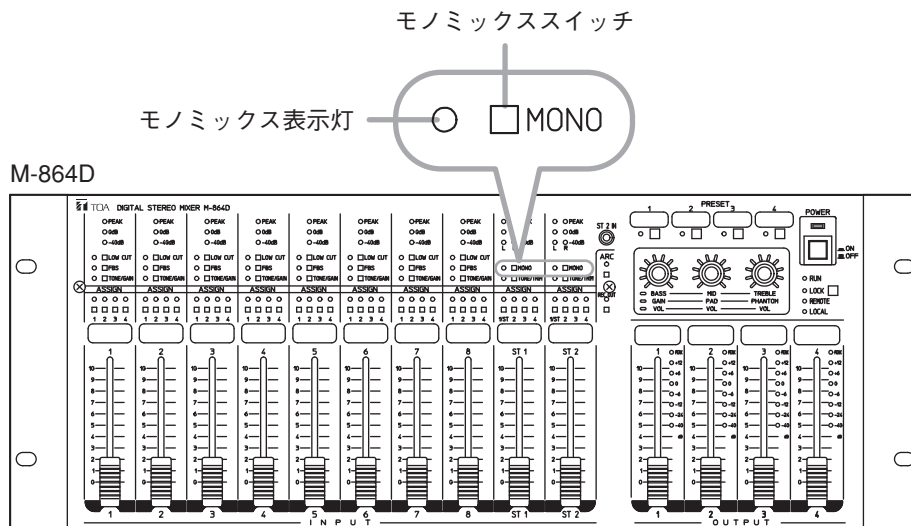
ローカット表示灯が消灯しているときに、ローカットスイッチを押す。

ローカット表示灯が点灯し、ローカットフィルターが ON になります。

※ ローカットスイッチは先の細いもので押してください。

● ローカットフィルターを OFF にする

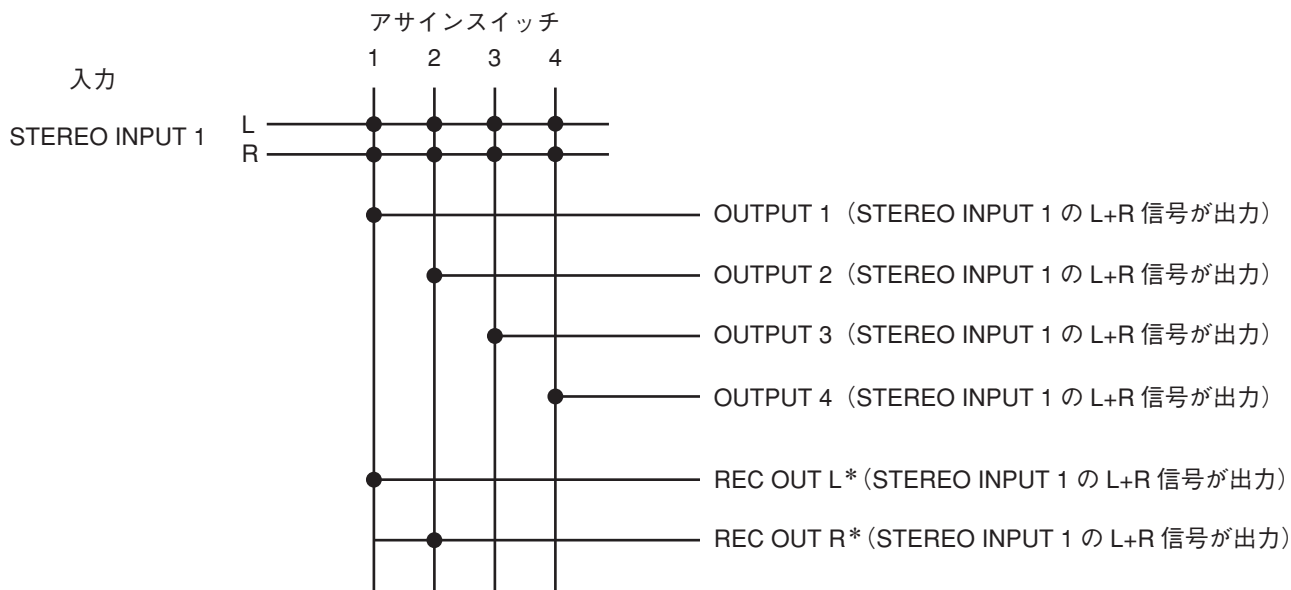
ローカット表示灯が点灯しているときに、ローカットスイッチを押す。

ローカット表示灯が消灯し、ローカットフィルターが OFF になります。

※ ローカットスイッチは先の細いもので押してください。

サミング出力の使いかた

STEREO INPUT 1 と STEREO INPUT 2 の L、R 信号をミキシングして OUTPUT 1 と OUTPUT 2 に出力することができます。
※ OUTPUT 3 と OUTPUT 4 には常時 L/R ミキシング信号が出力されます。

モノミックススイッチを押して、表示灯が点灯したら、サミング出力（モノミックス）になります。

※ モノミックススイッチは、先の細いもので押してください。

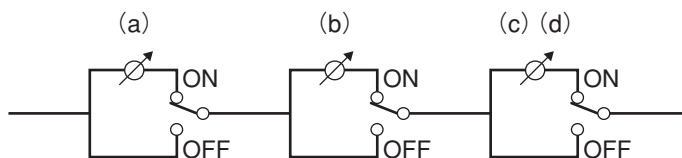
STEREO INPUT 1 のアサインスイッチ 1 ～ 4 のすべてを ON にしたときの、信号の流れは下図のようになります。

* REC OUT のアサインは M-864D PC ソフトウェアで設定します。
デフォルトでは、次のとおり設定されています。
REC OUT L：アサインスイッチ 1
REC OUT R：アサインスイッチ 2

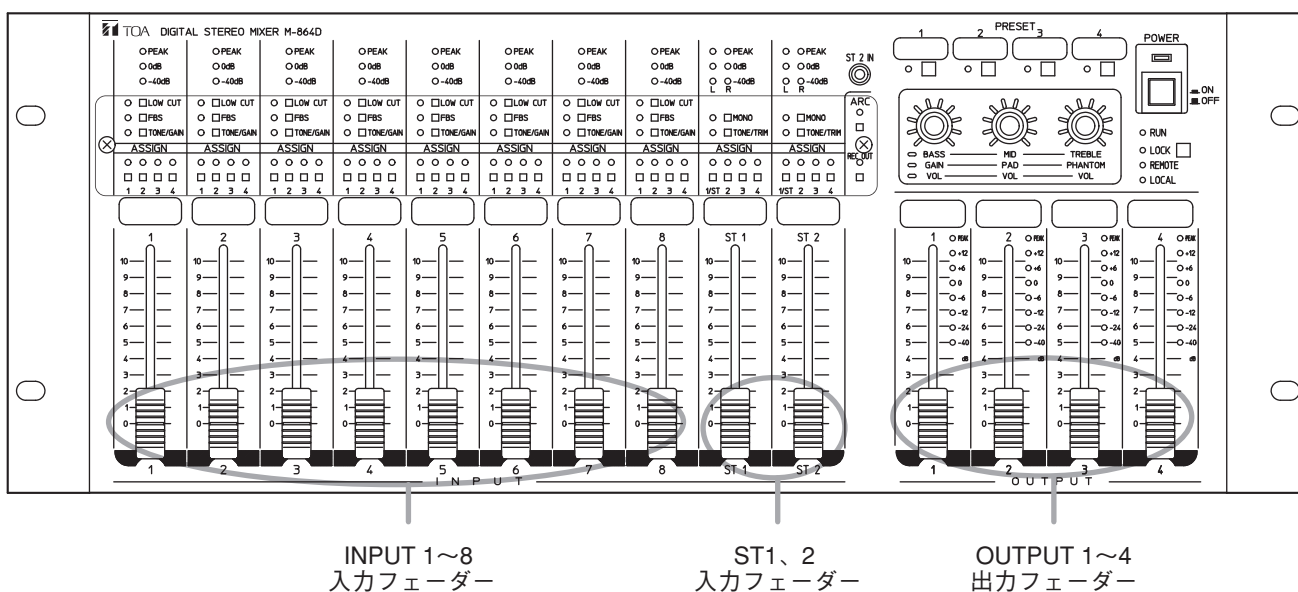
音量調節のしかた

■ 入出力音量の調節

各入力と各出力の音量は、次の 4 つの方法で調節できます。

(a) 前面パネルのフェーダーによる調節　　(b) 付属の M-864D PC ソフトウェアによる調節
(c) 別売の壁リモコンによる調節　　(d) 外部制御機器による調節

これら音量調節器の構成は右記のとおりです。

● 前面パネルのフェーダーによる調節

M-864D

・ **INPUT 1 ～ 8 入力フェーダー**
MONO INPUT 1 ～ 8 の入力レベルを調節します。

・ **ST1、2 入力フェーダー**
STEREO INPUT 1（ステレオ入力端子 A、B、C）と STEREO INPUT 2（ステレオ入力端子 A、B、C、前面ステレオ入力 2）の入力レベルを調節します。
各入力はミキシングされて出力されます。トリム調節でミキシング量を調節します。

※ STEREO INPUT 2 の前面ステレオ入力 2 は、常に出力されます。
詳しくは別冊のソフトウェア取扱説明書をお読みください。

・ **OUTPUT 1 ～ 4 出力フェーダー**
OUTPUT 1 ～ 4 の出力レベルを調節します。

● 付属の M-864D PC ソフトウェアによる調節

付属の M-864D PC ソフトウエアを使って、調節することができます。
詳しくは別冊のソフトウェア取扱説明書をお読みください。

● 別売の壁リモコンによる調節

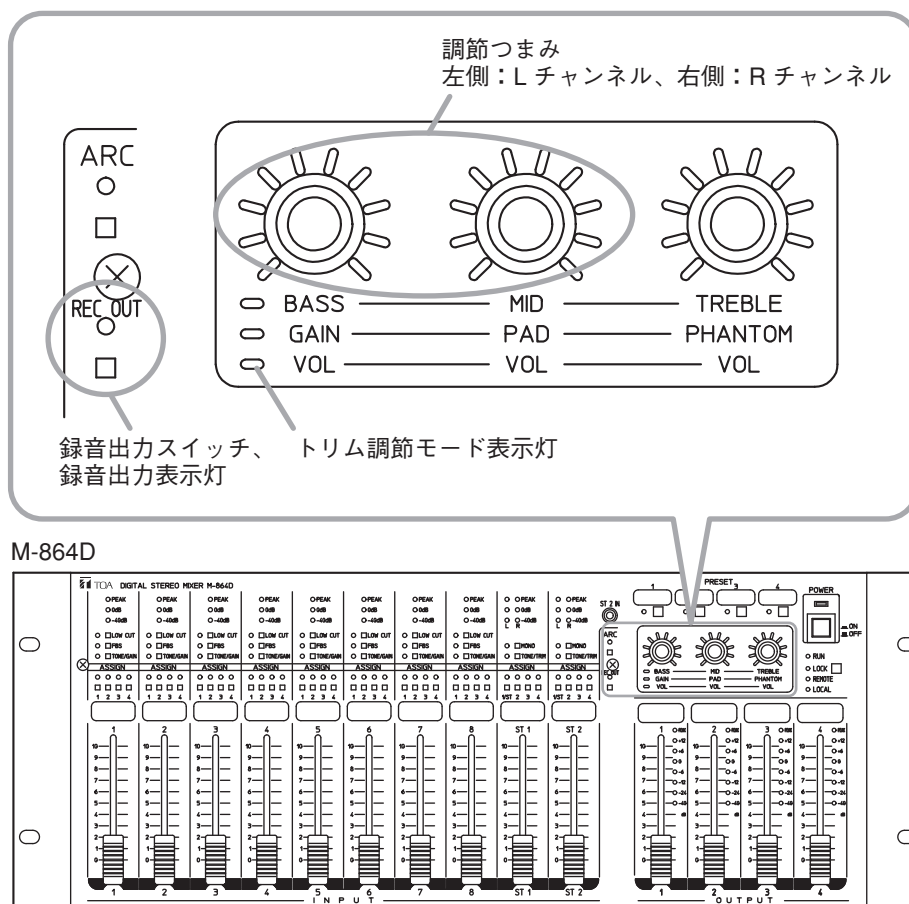
指定の壁リモコンからのリモート制御による音量調節ができます。
接続のしかたは P. 51、操作のしかたは P. 49 をお読みください。

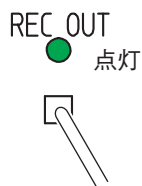
● 外部制御機器による調節

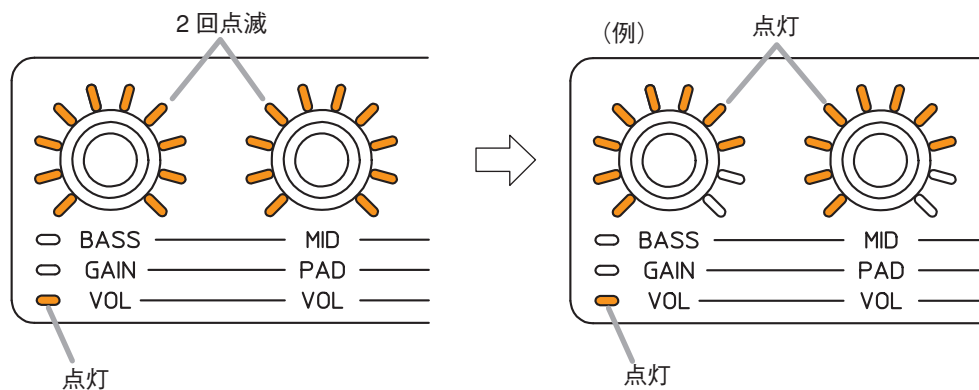
外部制御機器による音量調節には次の 2 つの方法があります。
・本機の制御入力端子に直接接続して無電圧接点信号により制御する方法
・LAN 経由により制御する方法
接続のしかたは P. 43 をお読みください。
機能の設定のしかたについては、別冊のソフトウェア取扱説明書をお読みください。

■ 録音出力（REC OUT）音量の調節

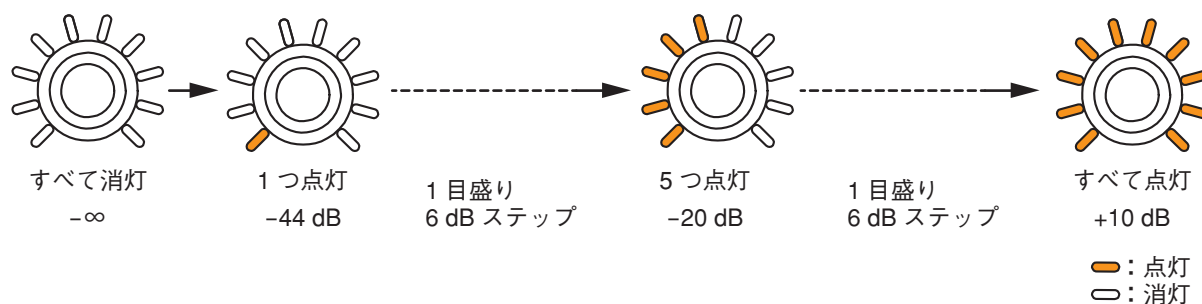
録音出力の音量を調節することができます。

［音量調節のしかた］

1 録音出力スイッチを押す。

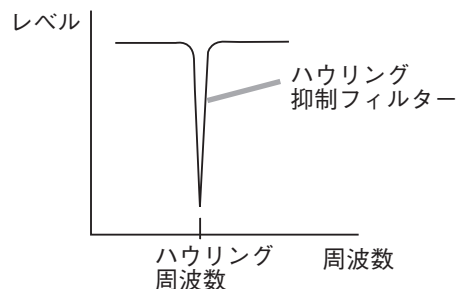
※ 先の細いもので押してください。

各表示灯が次のようになります。

・録音出力表示灯　　　　　　：緑色に点灯
・トリム調節モード表示灯　：橙色に点灯
・調節つまみの設定値表示灯：すべてが 2 回点滅後、L 側、R 側それぞれの出力レベルを表示

2 調節つまみで録音出力の音量を調節する。

初期値	0 dB
調節範囲	－∞、−44 ～ +10 dB（1 dB ステップ）

調節つまみの設定値表示灯と録音出力レベルの関係は次のとおりです。

FBS 機能の設定のしかた

■ ハウリング抑制機能（FBS）とは

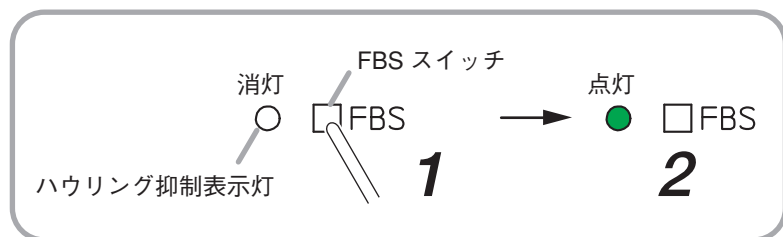
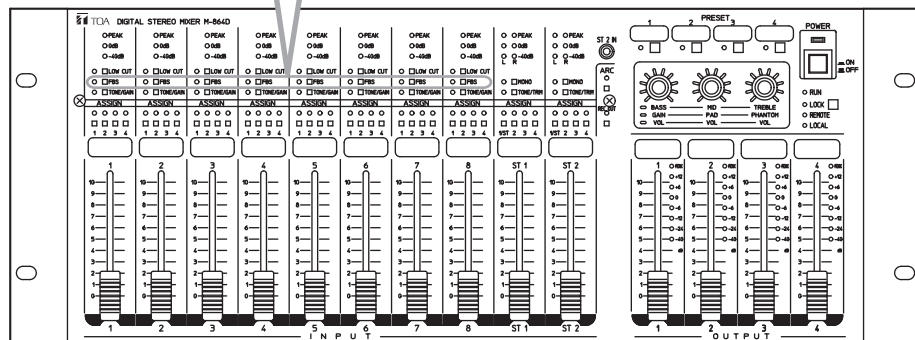
FBS とは Feed Back Suppressor の略です。
ハウリングが発生すると、ハウリング抑制フィルターが自動で働きハウリングを抑制することができます。

■ FBS 機能を ON にする

FBS 機能が ON のときにハウリングが発生すると、ハウリング抑制フィルターが自動で働き、ハウリングを抑制します。
MONO INPUT 1 ～ 8 の各チャンネルそれぞれ独立して動作しています。

※ 付属の M-864D PC ソフトウェアを使って設定することもできます。
詳細は別冊のソフトウェア取扱説明書をお読みください。

メ　モ

- ガード設定をしていないハウリング抑制フィルターは、電源起動時にクリアされます。
ガード設定については別冊のソフトウェア取扱説明書をお読みください。
- 運用中にプリセットメモリー番号を切り換えたときは、現在動作中のハウリング抑制フィルターが継続して設定されます。

1 ハウリング抑制表示灯が消灯しているときに、FBS スイッチを押す。

※ FBS スイッチは先の細いもので押してください。

ご注意

ハウリングの発生状況によっては、抑制されない場合があります。その場合は、該当チャンネルの入力フェーダーを下げ、入力レベルを下げてください。

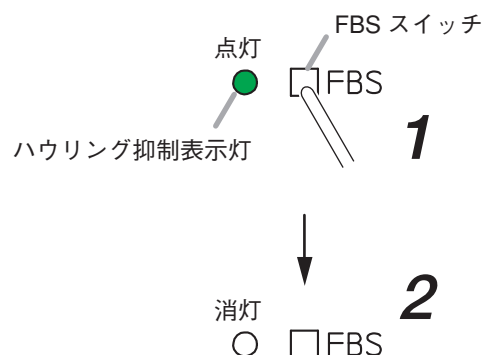
2 ハウリング抑制表示灯が点灯したら、FBS スイッチを離す。

ハウリング抑制表示灯が点灯すると、FBS 機能が ON になります。

■ FBS 機能を OFF にする

1 **ハウリング抑制表示灯が点灯しているときに、FBS スイッチを押す。**

2 **ハウリング抑制表示灯が消灯したら、FBS スイッチを離す。**

ハウリング抑制表示灯が消灯すると、FBS 機能が OFF になります。

ARC 機能の設定のしかた

■ 自動音場補正機能（ARC）とは

ARC とは Automatic Resonance Control の略です。
建築空間固有の音響特性を自動で測定し、明瞭性を向上させる音場補正フィルター（ARC フィルター）を自動生成する機能です。

■ ARC 機能設定時のご注意

- 設置・接続が完了したら、ARC 機能を動作させる前に、実際に音が出ることを確認してください。
- ARC 測定時にアサイン設定されている出力チャンネルに ARC フィルターが設定されます。
- ARC フィルターがすでに設定されている場合は、ARC 測定完了後に上書きされます。
- ARC フィルターを初期化するには、ARC 機能を OFF にしてください。（☞ P. 36）
  このとき、すべての出力チャンネルの ARC フィルターが初期化されます。個別の初期化はできません。

■ ARC 機能を ON にする

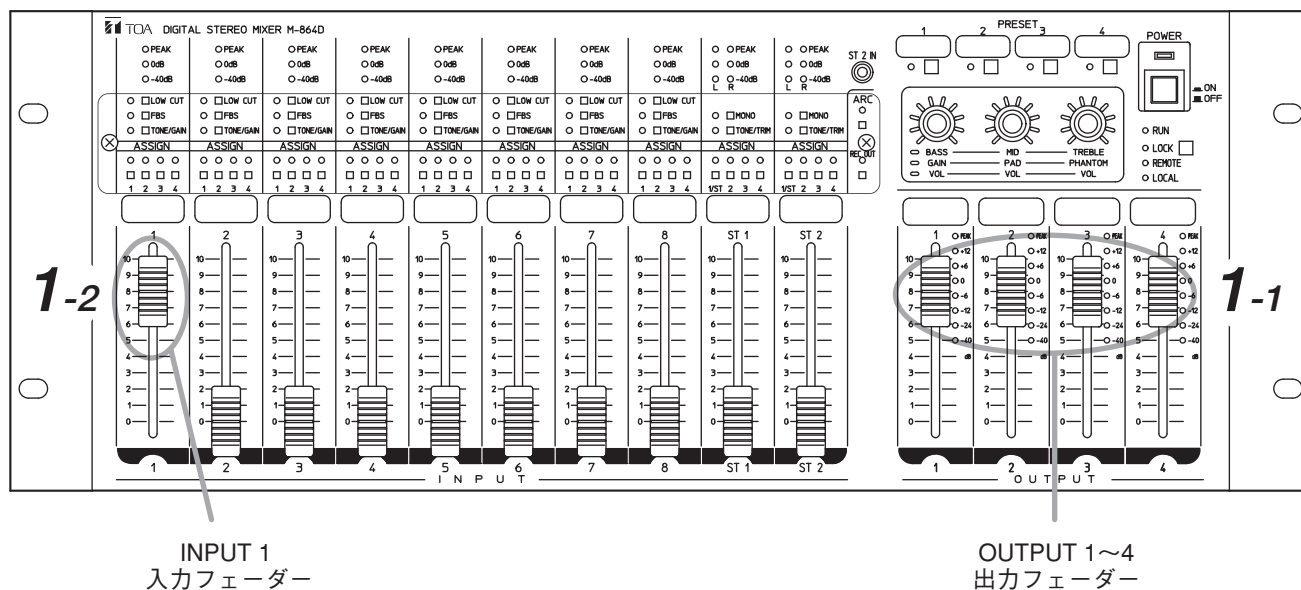
ARC フィルターを自動的に生成し、明瞭性の良い出力音に調節することができます。
実際に使用する環境でマイク放送をして、ARC 測定を行います。

1 入出力レベルの初期設定をする。

1-1 すべての出力フェーダーを「8」の位置に設定する。

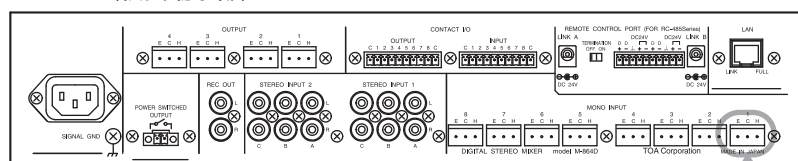
1-2 INPUT 1 の入力フェーダーを「8」の位置に設定する。

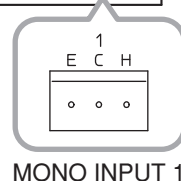
1-3 接続されている出力アンプの音量つまみを最小にする。

M-864D

2 測定用マイクを接続する。

本機で通常使用するマイクを使うことができます。

2-1 測定用マイクを後面の MONO INPUT 1 に接続する。

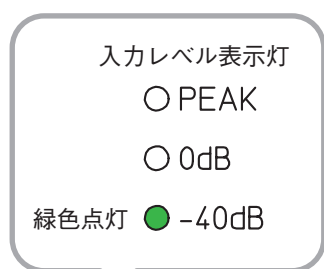
M-864D（後面端子部）

ご注意

測定用マイクは必ず MONO INPUT 1 に接続してください。

2-2 入力感度を設定する。

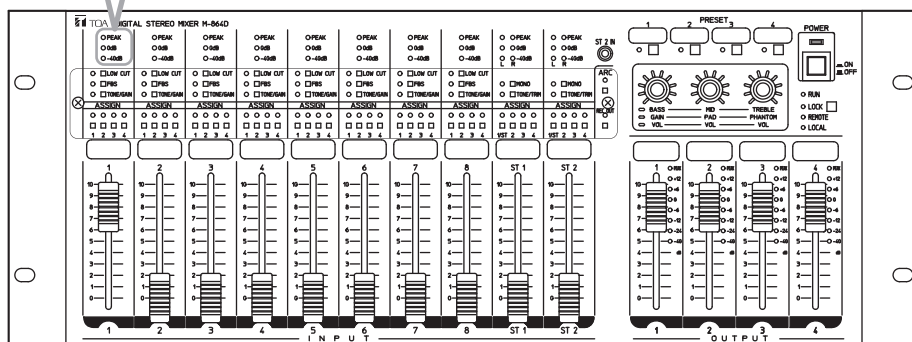
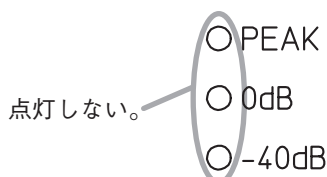
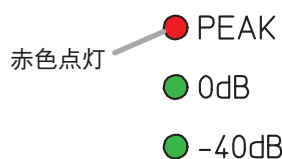
本機をゲイン調節モードにして、使用するマイクに合わせた設定にしてください。（☞ P. 17）

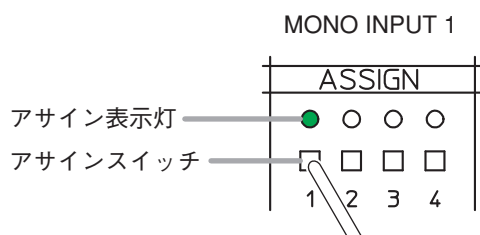
ダイナミックマイク：PAD OFF
コンデンサーマイク（電源が必要）：PHANTOM
ワイヤレスチューナー出力（LINE レベル）：PAD ON

3 マイクの動作を確認する。

マイクを使って話し、INPUT 1 の入力レベル表示灯が緑色に点灯することを確認してください。

ご注意

- マイクと口の間は手のこぶし程度離し、音量は普通に会話する大きさにします。
- 出力アンプの音量つまみを最小にしていますので、この段階ではスピーカーからの音は聞こえません。

M-864D

表示灯が以下の状態のときは、MONO INPUT 1 の入力ゲインを調節してください。（☞ P. 25）

4 MONO INPUT 1 の出力先を設定する。

MONO INPUT 1 の出力先を ARC フィルターを設定するチャンネルにします。
MONO INPUT 1 のアサインスイッチ 1 〜 4 を押してください。
複数の出力チャンネルを選択することもできます。

※ アサインスイッチは先の細いもので押してください。

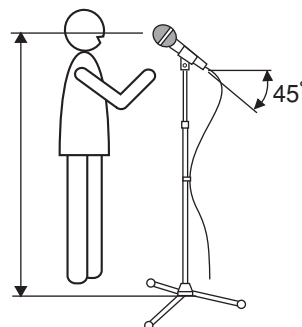
5 出力アンプの音量を調節する。

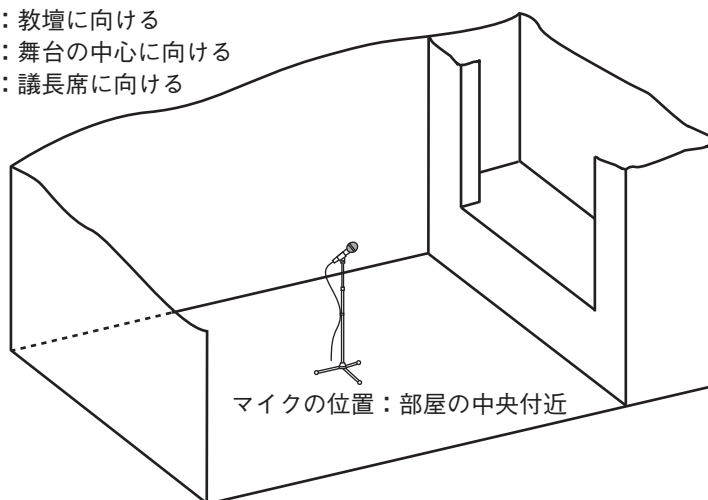
接続されている測定用マイクに向かって音声を入れながら、本機に接続されているアンプの音量つまみで通常使用する音量に調節してください。

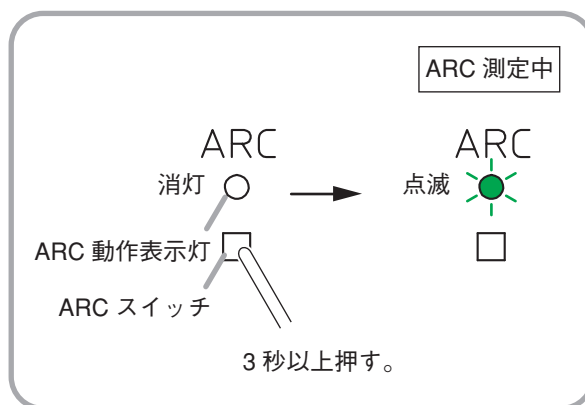
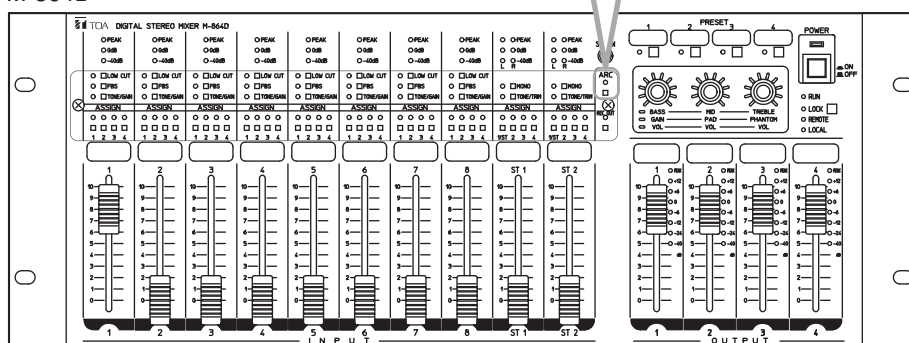
6 測定用マイクを設置する。

マイクはどのように設置しても測定できますが、下記の設置方法をおすすめします。

［マイクの設置例］

- マイクの高さ　　　　：測定者の耳の高さ
- マイクの設定角度　　：45°
- マイクの位置　　　　：部屋の中央付近（下図参照）
- マイクの方向　　　　：運用時の話者に向ける（下図参照）

［マイク設置場所の例］

教室　　　　　　　　　：教壇に向ける
体育館、多目的ホール　：舞台の中心に向ける
会議室　　　　　　　　：議長席に向ける

7 ARC 測定を開始する。

ARC スイッチを 3 秒以上押し続け、ARC 動作表示灯が点滅したら離してください。

※ ARC スイッチは先の細いもので押してください。

ご注意

- ARC 測定を途中で止めたいときは、ARC スイッチを押してください。
- ARC 測定中は本機および外部機器のスイッチやつまみなどの操作は一切しないでください。

［ARC 測定の動作］

ARC 測定中は、下図の 3 段階の動作を行います。それぞれの動作時には、異なる音が出力されます。
正常測定中は ARC 動作表示灯がゆっくり点滅しますが、異常時には点滅が速くなります。

	正常測定時	異常時
ARC 動作表示灯の状態	ARC ゆっくり点滅	ARC 速く点滅

測定開始

測定中は、MONO INPUT 2〜8、STEREO INPUT 1〜2に入力された信号はミュートされます。（MONO INPUT 1の信号のみ出力されます。）
また、FBS機能およびオートミュート機能が一時的にOFFになります。

測定開始直後にARC動作表示灯が速く点滅したとき＊

MONO INPUT 1がどの出力にもアサインされていません。
アサインの設定を確認してください。（☞ P. 31 の手順 4）

音量調節：音（ジャー）が2回出力されます。

ARC動作表示灯が速く点滅したとき＊

入力レベルが小さ過ぎます。
- マイクから音を入れ、音が出力されているか確認してください。
- MONO INPUT 1の入力フェーダーを上げて、入力レベルを大きくしてください。

距離の測定：音（パツン）が2回出力されます。

ARC動作表示灯が速く点滅したとき＊

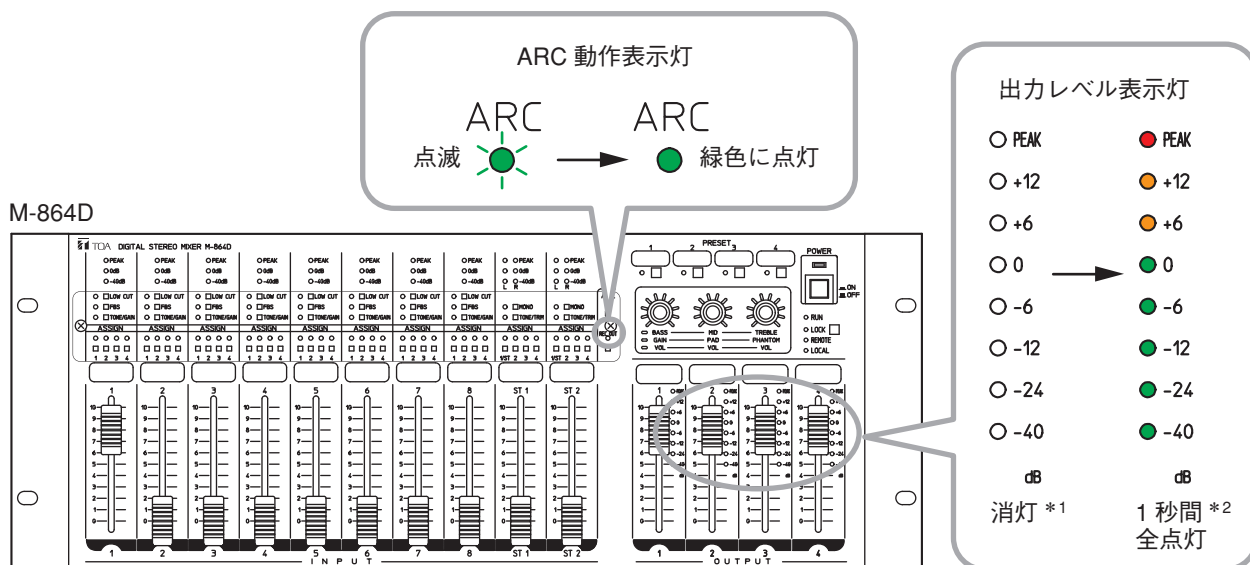
大きな騒音を検知しました。
マイクの向きを確認してください。また、周囲で大きな騒音が発生していないか確認してください。

音場の測定：音（ピュイーン）が3回出力されます。

測定完了

＊ 以下の方法で異常時の復帰を行ってください。
1. ARC スイッチを押して測定を停止する。
   ARC 表示灯は速い点滅が止まり消灯または点灯します。（☞ P. 36）
2. 異常の原因を解消した後、もう一度手順 7 の ARC 測定を開始する。

測定が完了し、ARC フィルターが設定されます。

ARC フィルターが設定されている出力レベル表示灯が 1 秒間、全点灯します。
このとき ARC 動作表示灯の点滅が点灯（緑色）に変わります。
ARC フィルターのデータは保存され、電源再投入後でも同じ効果が得られます。

*1 マイクの入力レベルによって、点灯する場合があります。

*2 ARC測定時にアサイン設定されていない出力チャンネルでも、以前にARCフィルターが設定されているチャンネルの出力レベル表示灯はすべて点灯します。

ご注意

ARC 測定完了後は、測定用マイクは不要です。通常使用する位置に移動してください。

■ 詳細な音響調整をしたいときの ARC 機能使用例

より詳細な音響調整をしたい場合には、出力チャンネルごとに異なる ARC フィルターを設定することができます。

[出力チャンネルが下記のような体育館での設定例]

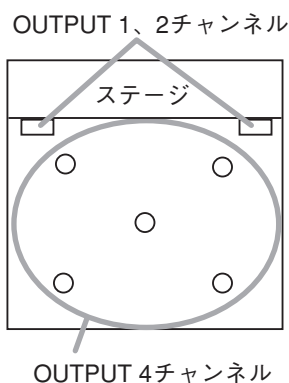
配線例

- OUTPUT 1、2 チャンネル：ステージ横のスピーカー
- OUTPUT 4 チャンネル　　：天井スピーカー

OUTPUT 1、2 チャンネルと OUTPUT 4 チャンネルで異なる ARC 機能を設定します。
この例では、次の手順で設定してください。

1 OUTPUT 4 チャンネルに ARC 機能の設定をする。

2 OUTPUT 1、2 チャンネルに ARC 機能の設定をする。

OUTPUT 4 チャンネルと OUTPUT 1、OUTPUT 2 チャンネルの各出力に異なる ARC フィルターが設定されます。

■ ARC 機能の設定状態を確認する

● ARC 動作表示灯の状態による確認

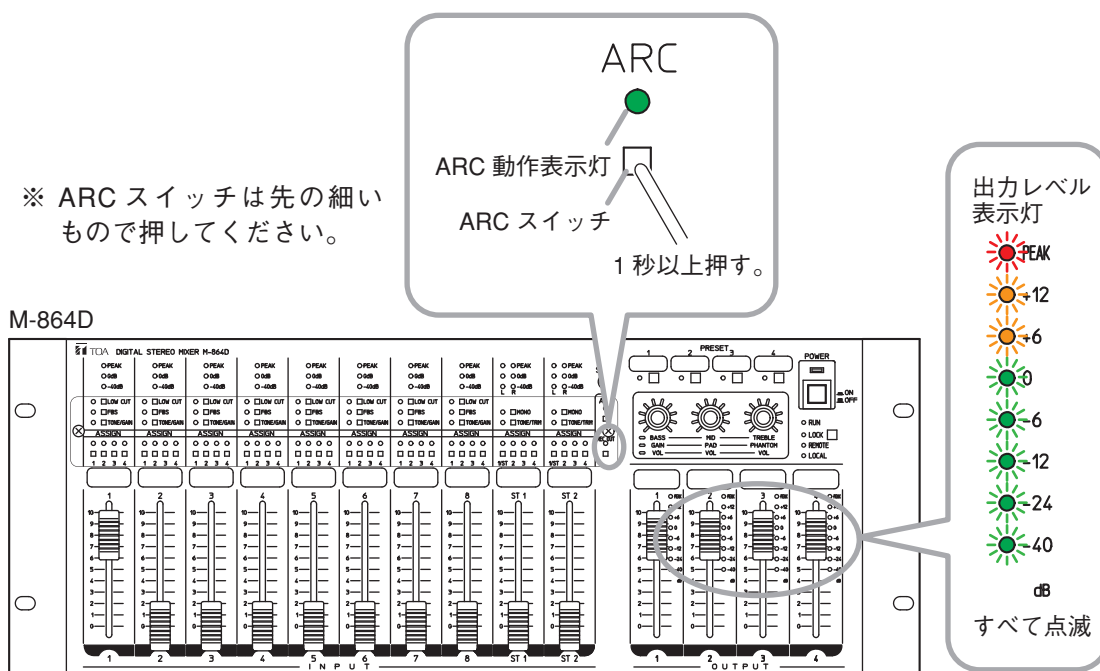
ARC 動作表示灯の状態により、ARC 設定の有無が確認できます。

	ARC フィルター設定あり	ARC フィルター設定なし
ARC 動作表示灯の状態	ARC ● 点灯	ARC ○ 消灯

● ARC スイッチの操作による確認

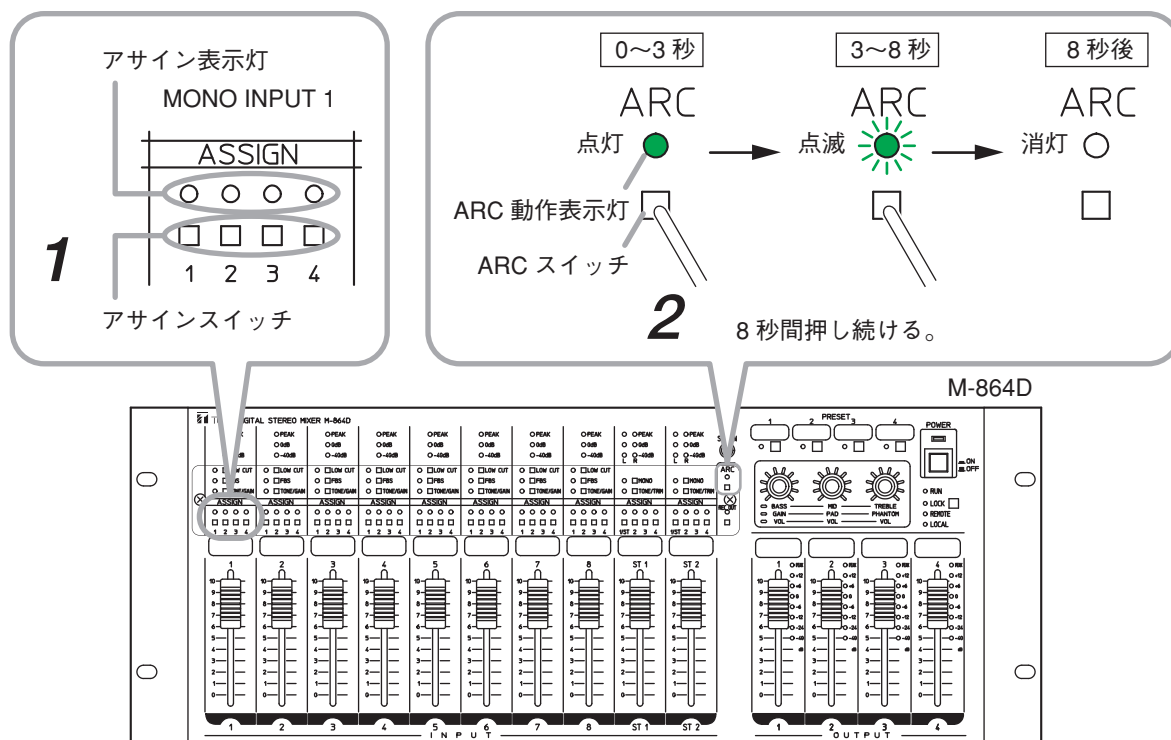
ARC 動作表示灯が点灯しているとき、ARC スイッチの操作で、ARC フィルターが設定されている出力チャンネルを確認することができます。

ARC スイッチを 1 秒以上押す。

ARC フィルターが設定されている出力チャンネルの出力レベル表示灯がすべて点滅します。

■ ARC 機能を OFF にする

設定した ARC フィルターを初期化することができます。

ご注意

以下の操作により、すべての出力チャンネルの ARC フィルターが初期化されます。
ARC フィルターを出力チャンネルごとに初期化することはできません。

※ アサインスイッチ、ARC スイッチは先の細いもので押してください。

1 MONO INPUT 1 のアサインスイッチ 1 〜 4 すべてを OFF（アサイン表示灯が消灯）にする。

2 ARC スイッチを 8 秒間押し続ける。

押してから 3 秒後、ARC 動作表示灯が速く点滅します。
さらに、そのまま 5 秒間押し続けてください。
ARC 動作表示灯が消灯し、ARC 機能が OFF になります。

オートミュートの設定のしかた

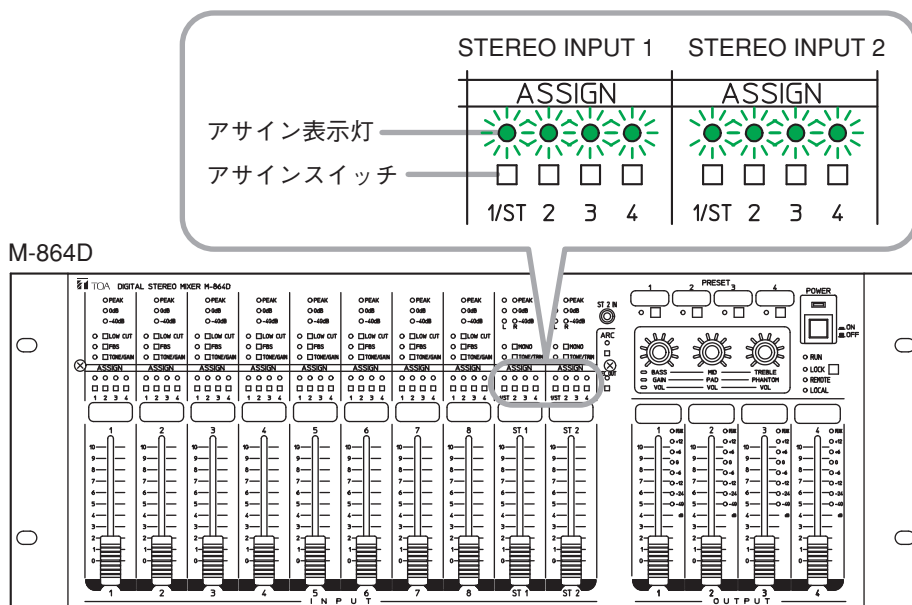
本機能は付属の M-864D PC ソフトウェアを使ってのみ設定することができます。
詳しくは別冊のソフトウェア取扱説明書をお読みください。

■ オートミュート機能とは

モノラル入力 1 〜 8 から入力された信号を検知して、ステレオ入力 1、2 に入力された信号の音量を自動的に下げる機能です。
出力 1 〜 4 それぞれに ON/OFF の設定できます。

■ オートミュート実行中の表示灯

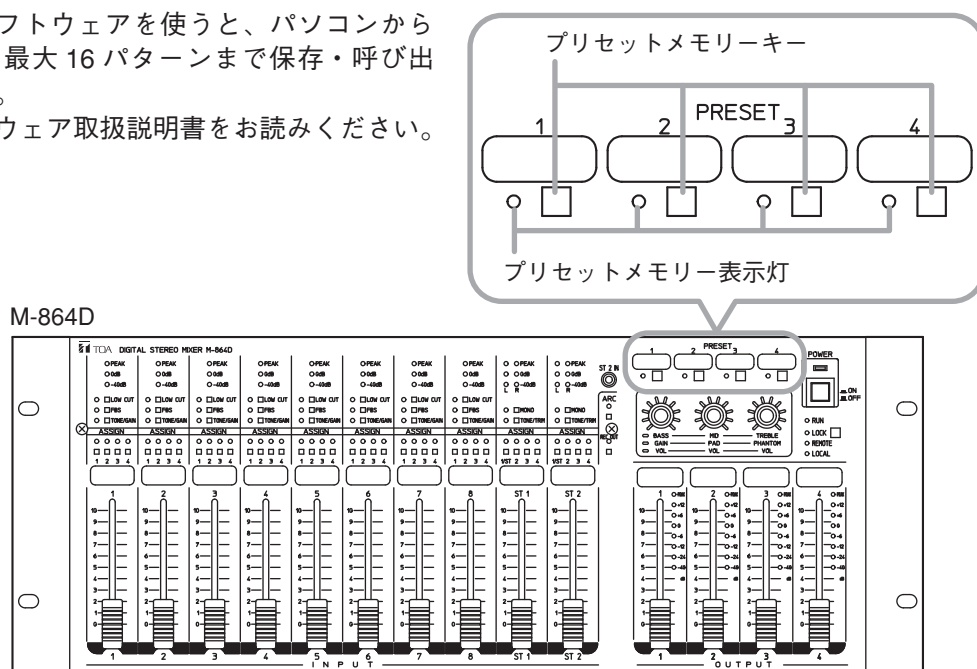
オートミュート実行中は、音量が減衰されているステレオ入力 1、2 のアサイン表示灯が点滅します。

［ステレオ入力 1、2 が出力 1 〜 4 に割り振られ、ミュートされたときの例］

プリセットメモリーの設定のしかた

あらかじめ保存しておいた各種設定データをボタンを押すことで呼び出すことができます。
保存した設定データをプリセットメモリーと呼びます。

■ プリセットメモリーの設定

プリセットメモリーは前面パネルのプリセットメモリーキーによって、4 パターン＊1 を保存・呼び出しすることができます。

＊1 付属の M-864D PC ソフトウェアを使うと、パソコンからの操作により、合計で最大 16 パターンまで保存・呼び出しすることができます。
詳しくは別冊のソフトウェア取扱説明書をお読みください。

プリセットメモリー表示灯が点灯している番号が現在呼び出されているプリセットメモリーです。
プリセットメモリー表示灯は、電源起動時プリセット番号の設定によって表示パターンが異なります。

		電源起動時プリセット番号の設定内容	
		Resume＊2	Memory 1 ～ 16
現在呼び出されている プリセットメモリー番号	1 ～ 4	該当する表示灯が点灯します。 ただし、エディット状態＊3 のときは消灯します。	該当する表示灯が点灯します。 エディット状態＊3 のときも点灯します。 （本体ファームウェア Ver. 2.1.0 以前は消灯します。）
	5 ～ 16	すべて消灯します。	

＊2 起動後、操作した内容が自動的に保存され、再起動後も反映される機能。
プリセットメモリーの内容は変化しません。フェーダー値は保存されません。

＊3 プリセットメモリーのパラメーターを変更した状態。

※ 電源起動時プリセット番号は、付属の M-864D PC ソフトウェアで設定します。

■ プリセットメモリー保存のしかた

1 **トーン／ゲイン／トリムの調節、アサインスイッチの設定など、必要な設定を行う。**

2 **設定データを保存したい番号のプリセットメモリーキーを 3 秒以上押し続ける。**

※ 右図はプリセットメモリー 1 に保存したいときの例です。

3 **プリセットメモリー表示灯が 1 回点滅するのを確認し、手を離す。**

保存される設定データは次のとおりです。

- ・ローカットスイッチの ON/OFF
- ・ハウリング抑制（FBS）スイッチの ON/OFF
- ・トーン調節の設定
- ・ゲイン調節の設定
- ・トリム調節の設定
- ・アサインスイッチの ON/OFF
- ・モノミックススイッチの ON/OFF
- ・ARC フィルターの設定
- ・PC VOL ＊
- ・EXT VOL ＊
- ・オートミュート設定＊

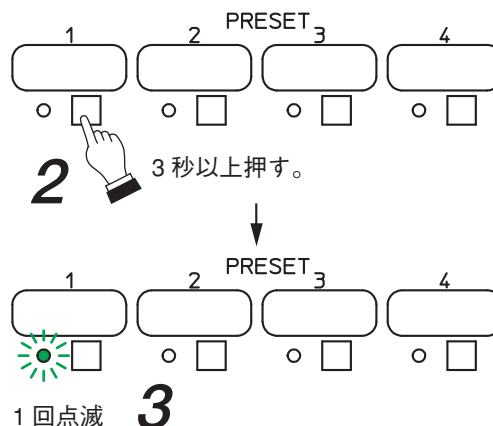
＊ 付属の M-864D PC ソフトウェアでのみ設定可

PRESET 1 2 3 4

2 3 秒以上押す。

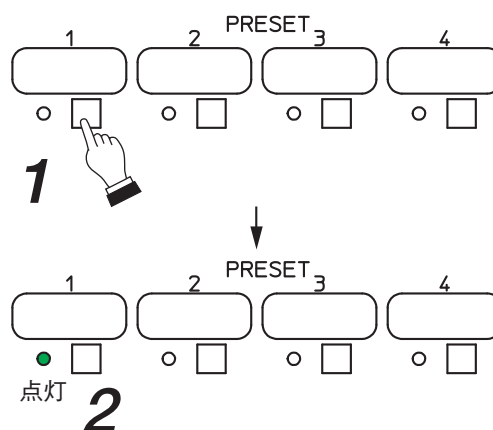
PRESET 1 2 3 4

1 回点滅 3

前面パネルのフェーダー値は保存されません。

■ プリセットメモリーの呼び出しかた

1 **呼び出したい番号のプリセットメモリーキーを押す。**

※ 右図はプリセットメモリー 1 を呼び出すときの例です。

2 **プリセットメモリー表示灯が点灯したら手を離す。**

システムロックのしかた

本機前面パネルからの操作を禁止（ロック）することにより、誤操作を防ぐことができます。
ロックできる機能は、付属の M-864D PC ソフトウェアで設定します。

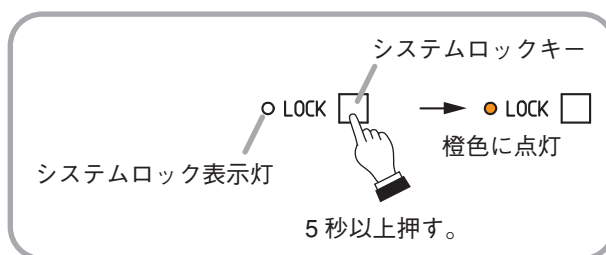
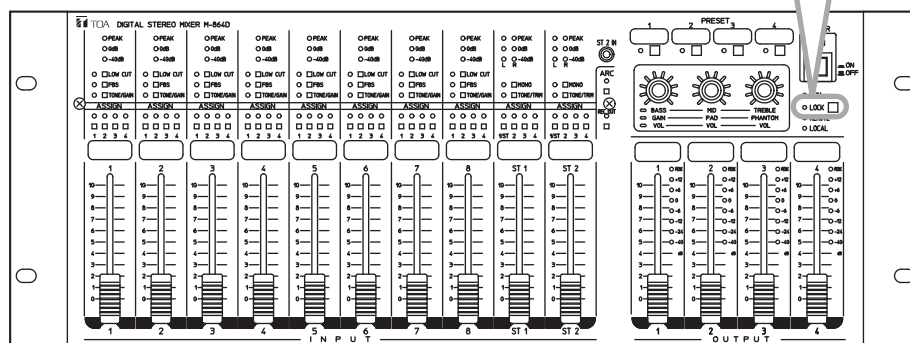
■ システムロック機能を ON にする

1 ロックする機能を付属の M-864D PC ソフトウェアで設定する。

※ 初期設定では以下のすべての機能をロックできるようになっています。
詳しくは別冊のソフトウェア取扱説明書をお読みください。

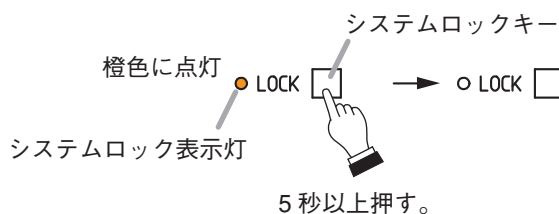
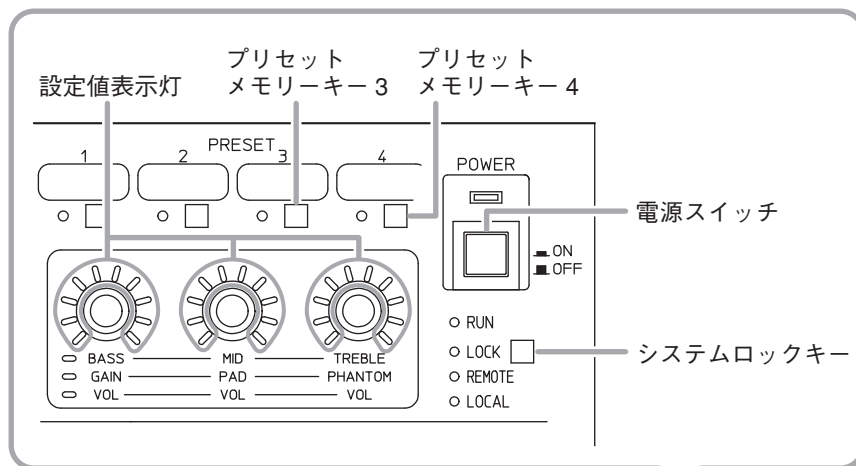
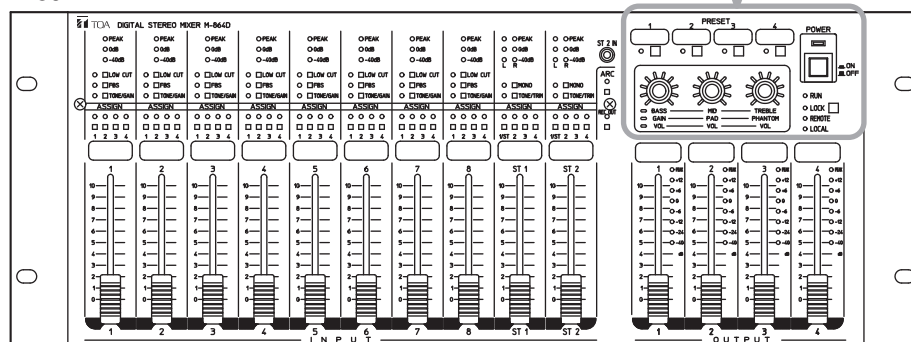
ロックできる機能は次のとおりです。

- ・ローカットスイッチの ON/OFF
- ・ハウリング抑制（FBS）スイッチの ON/OFF
- ・トーン調節の設定
- ・ゲイン調節の設定
- ・トリム調節の設定
- ・モノミックススイッチの ON/OFF
- ・アサインスイッチの ON/OFF
- ・プリセットメモリーの保存、呼出
- ・前面パネル入出力音量フェーダー
- ・ARC フィルターの設定
- ・録音出力の音量操作

2 システムロックスイッチを 5 秒以上押し続け、システムロック表示灯が橙色に点灯したら、手を離す。

■ システムロック機能を OFF にする

システムロックスイッチを 5 秒以上押し続け、システムロック表示灯が消灯したら、手を離す。

メ モ

システムロック機能が動作しているときは、システムロック表示灯が橙色に点灯します。

初期化のしかた

1 電源を OFF にする。

2 プリセットメモリーキー 3、4 とシステムロックキーの 3 つを押しながら、電源を ON にする。

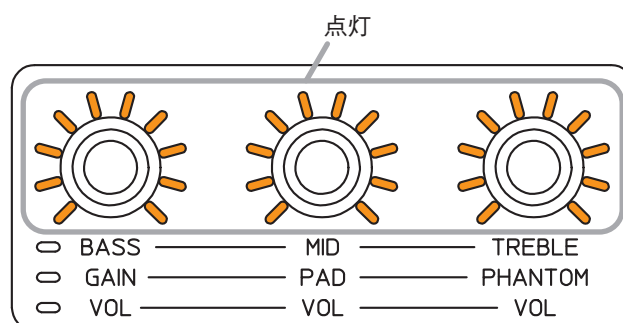
3 前面パネルのすべての表示灯が点灯し、消灯した後、設定値表示灯のみが点灯したら、指を離す。

設定値表示灯が順番に消灯していきます。
30 秒ですべて消灯します。

4 設定値表示灯がすべて消灯する前に、もう一度プリセットメモリーキー 3、4 とシステムロックキーの 3 つを押す。

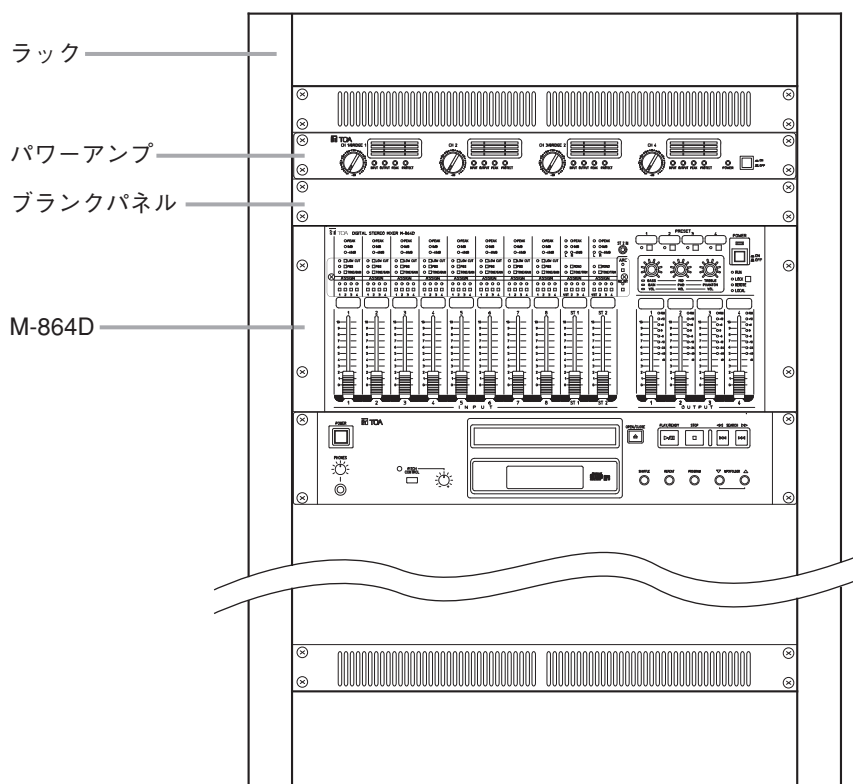
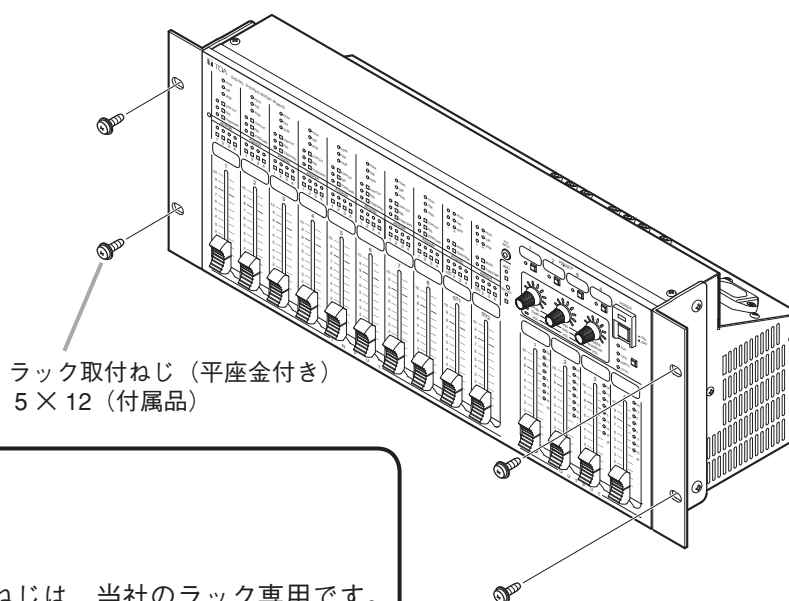
押している間は、すべての設定値表示灯が点灯しています。

5 指を離す。

前面パネルのすべての表示灯が消灯し、初期化作業が始まります。初期化中は設定値表示灯が順番に点灯していきます。
初期化が完了した後、通常起動します。

設置のしかた

■ 設置上のご注意

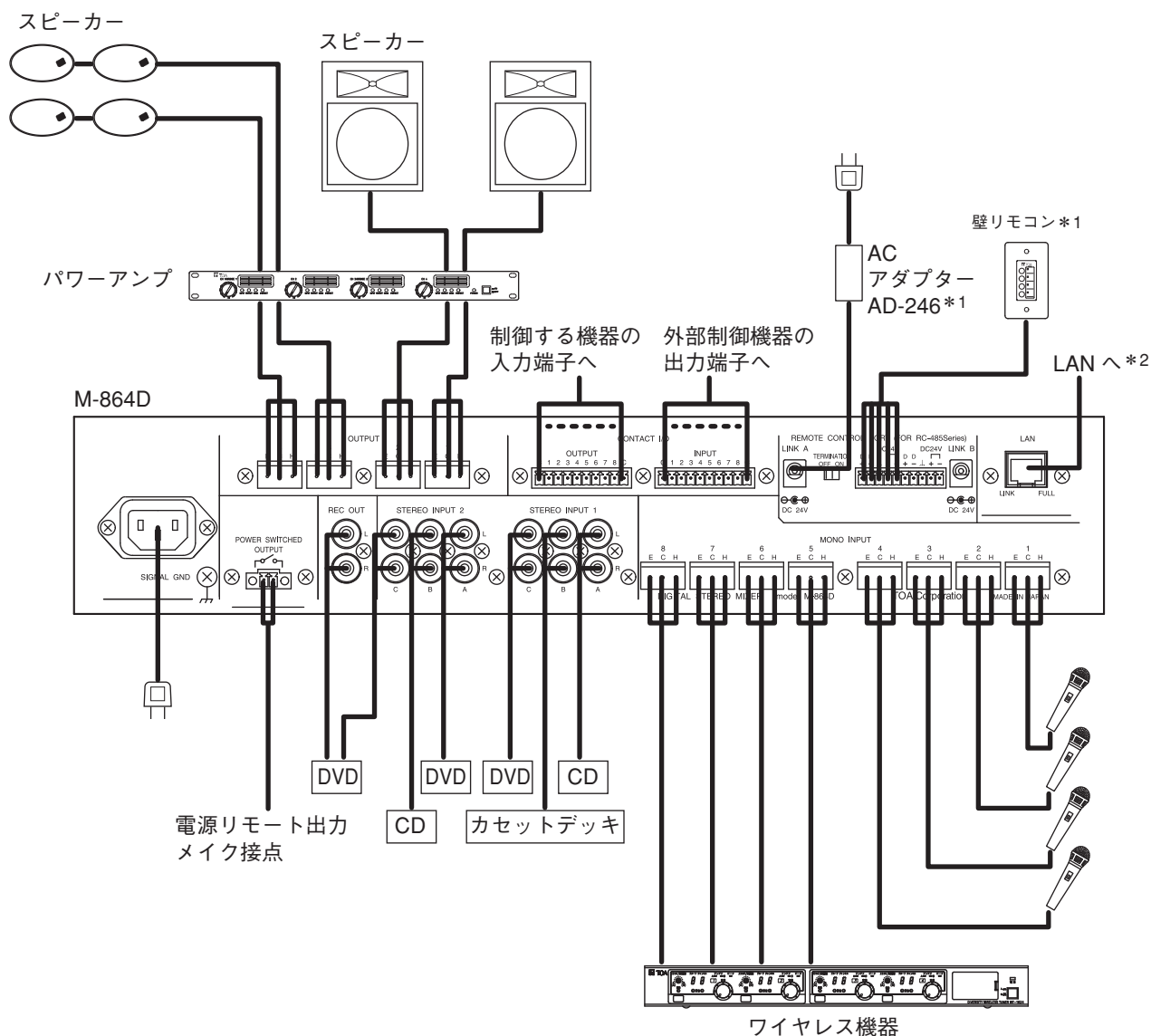
⚠ 注意

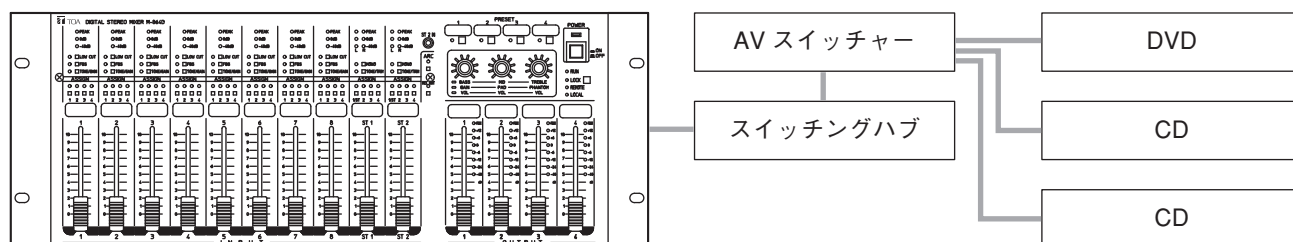
本機の両側面および後面の通風口をふさがないでください。
ふさぐと内部に熱がこもり、火災の原因となることがあります。

■ ラックへの取り付けかた

⚠ 注意

本機に付属のラック取付ねじは、当社のラック専用です。
他のラックには使用しないでください。
守らないと、落下してけがの原因となることがあります。

接続のしかた

■ 接続例

スピーカー
スピーカー
パワーアンプ
AC
アダプター
AD-246＊1
壁リモコン＊1
制御する機器の
入力端子へ
外部制御機器の
出力端子へ
LAN へ＊2
M-864D
DVD
DVD
DVD
CD
CD
カセットデッキ
電源リモート出力
メイク接点
ワイヤレス機器

＊1　壁リモコンを使用するときの接続のしかた（☞ P. 51）
＊2　外部制御機器と LAN 経由で通信することができます。
M-864D から、AV スイッチャーなどの制御コマンドを送信する機能がありますので、AMX などの制御機器がなくても、AV スイッチャーなどを制御できます。
機能の設定は付属の M-864D PC ソフトウェアで行います。

M-864D

■ 着脱式ターミナルプラグの接続のしかた

ご注意

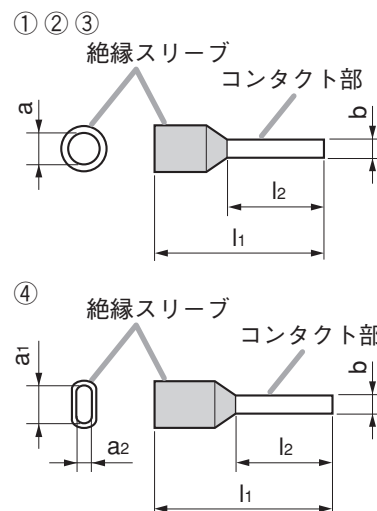
- より線、シールド線を使用するときは、むきしろ部分にはんだめっきをしないでください。
  線材を締め付けたときに、はんだスズが破砕し接触抵抗が高くなるため、接続部の温度が異常に上昇することがあります。
- 1 つの端子に 2 本の線材を接続する場合や信号線を接続する場合などに心線がばらけるのを防ぐためには、絶縁スリーブ付き棒端子で圧着してください。

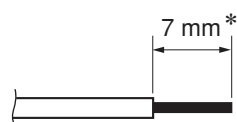
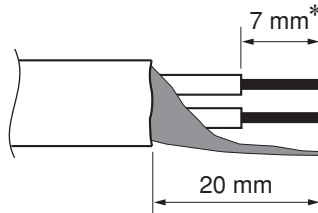
推奨棒端子：着脱式ターミナルプラグに対応
（フェニックス・コンタクト製）

	品 番	a	b	l1	l2
①	AI 0,34-8 TQ	2 mm	0.8 mm	12.5 mm	8 mm
②	AI 0,5-8 WH	2.5 mm	1.1 mm	14 mm	8 mm

推奨棒端子：着脱式ターミナルプラグ（3P）に対応
（フェニックス・コンタクト製）

	品 番	a	a1	a2	b	l1	l2
③	AI 1,5-8 BK	3.4 mm	—	—	1.8 mm	14 mm	8 mm
④	AI-TWIN 2 x 1,5-8 BK	—	6.6 mm	3.6 mm	2.3 mm	16 mm	8 mm

かしめ工具：CRIMPFOX UD6-4（フェニックス・コンタクト製）

- 線材のむきしろ

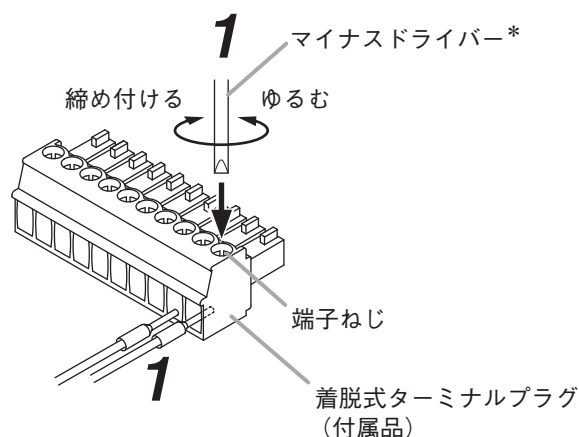
［単線、より線］

［シールド線］

* 絶縁スリーブ付き棒端子を使用する場合は8 mm以上とし、はみ出た分はカットしてください。

- 配線手順

1 **着脱式ターミナルプラグに線材を接続する。**

1-1 **端子ねじをゆるめて、線材を差し込む。**

1-2 **端子ねじをしっかりと締め付ける。**

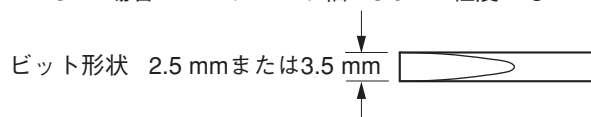
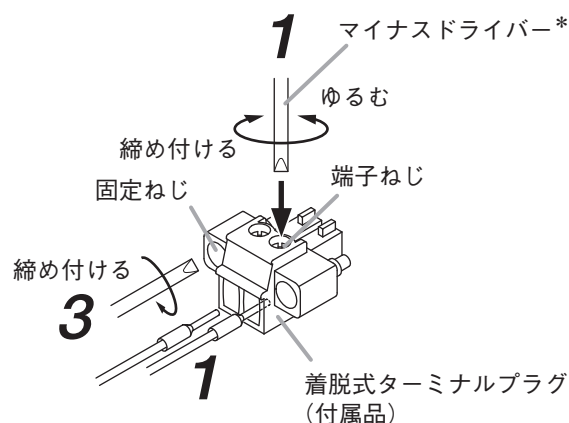
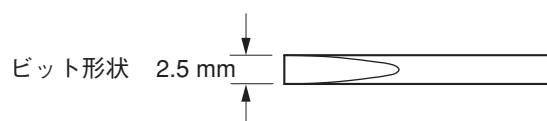
線材を引っ張って抜けないことを確認してください。
抜けたら、端子ねじをゆるめてやり直してください。

2 **ターミナルプラグを機器側のターミナルブロックに差し込む。**

ご注意

手順の 1 と 2 を逆にしないでください。
端子ねじを締め付けるときに、ボードとの接続部のコネクターピンに力が加わり、接触不良になる恐れがあります。

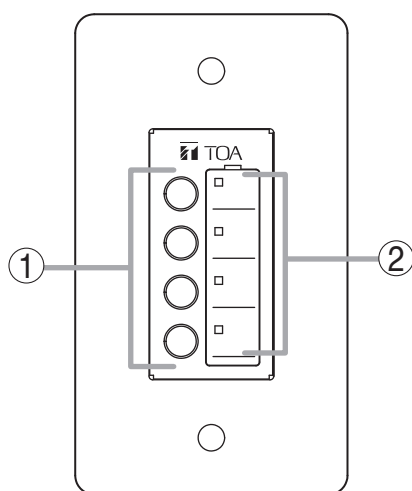
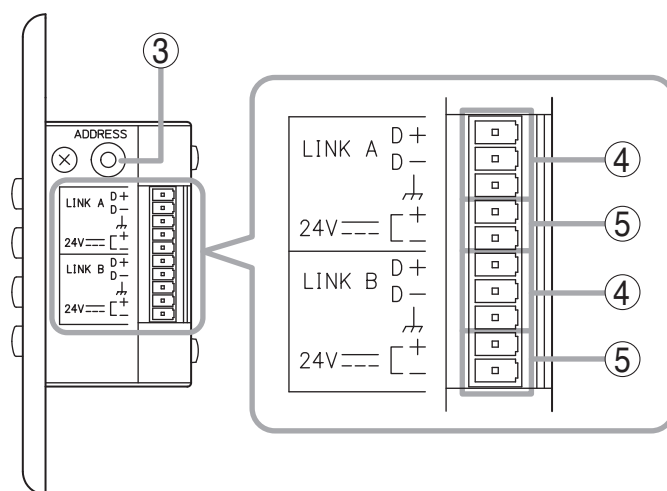
［固定ねじのないタイプの場合］

* 推奨マイナスドライバー
3P以外の場合：ブレード幅が2.5 mm程度のもの
3Pの場合　　：ブレード幅が3.5 mm程度のもの

ビット形状　2.5 mmまたは3.5 mm

3 固定ねじのあるタイプのターミナルプラグの場合は、固定ねじをしっかり締め付ける。

＊ 推奨マイナスドライバー：ブレード幅が2.5 mm程度のもの

壁リモコンを使用するとき

■ 壁リモコンの概要

● リモートコントロールパネル RC-485B4

M-864D と接続し、4 つのボタンによる各種制御を行います。
M-864D とパネルの間は通信を行っており、M-864D の動作に応じて表示が変化します。
1 サイズの電工ボックスに組み込むことができます。

［前面］

［側面］

1. 機能ボタン
押すとこのボタンに割り付けられた機能が働きます。
以下の機能を割り付けることができます。
・チャンネル ON/OFF
・EXT VOL ゲイン Up/Down
・ステレオ入力ソース選択
・マトリクスアサイン
・マトリクスゲイン
・プリセットメモリーロード

・リモート接点出力
・外部コマンド送信
機能の割り付けは、M-864D に付属の M-864D PC ソフトウェアを使ってパソコンで行います。詳細は別冊のソフトウェア取扱説明書をお読みください。

2. 作動表示灯
機能ボタンを押して、割り付けられた機能が有効になっているときに点灯します。

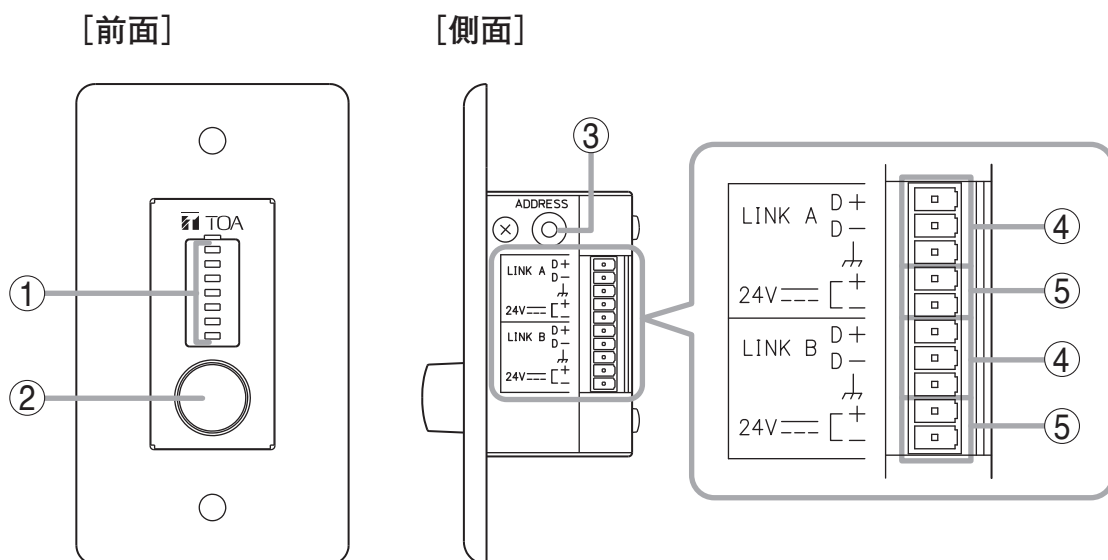
3. アドレスセレクター［ADDRESS］
RC-485B4 のアドレス（0 ～ F）を設定します。他の壁リモコンと重複しない値を設定します。
アドレス番号は小さい順に 0 ～ 9、A ～ F となっています。

4. データライン接続端子［LINK A、LINK B］
M-864D との通信線を接続します。
通信線には極性があります。M-864D のデータライン接続端子と極性を合わせてください。
ターミナルが 2 つありますが、それぞれ内部で結線されていますので、一方を他の壁リモコンとの接続に使用できます。

5. DC24 V 端子
M-864D からの電源線を接続します。

● リモートコントロールパネル RC-485V1

M-864D と接続し、音量調節つまみによって設定された入出力チャンネルの音量制御を行います。
また、設定されたチャンネルの音量設定位置を表示します。
1 サイズの電工ボックスに組み込むことができます。

［前面］　［側面］

1. 音量設定位置表示灯
音量調節つまみで設定されているレベルを表示します。
設定レベルは 7 ポイント LED で表示されます。

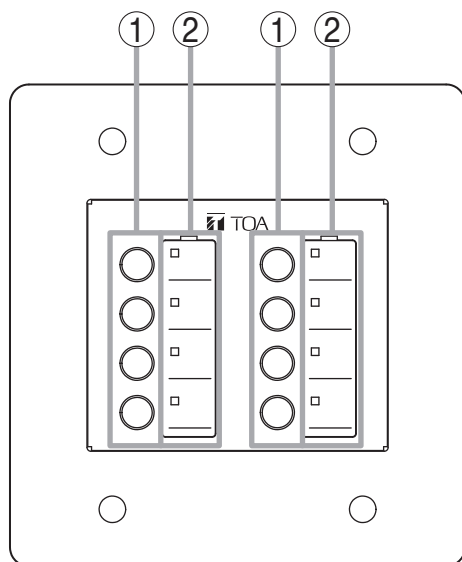
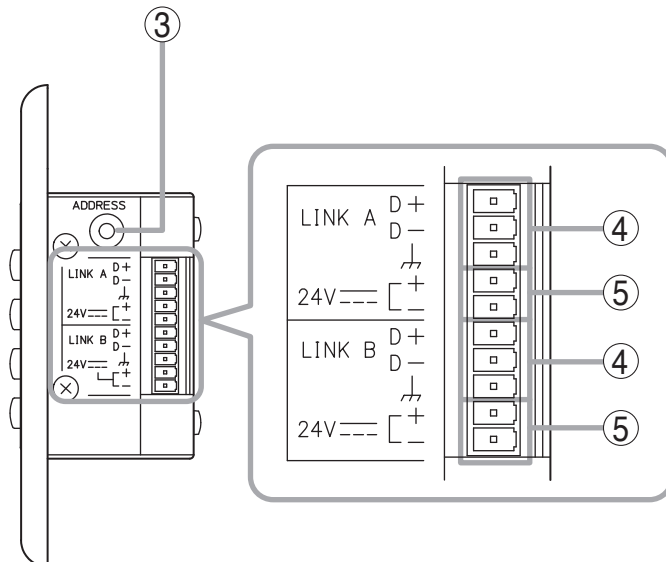
2. 音量調節つまみ
EXT VOL、クロスポイントゲインの音量を調節します。
音量を調節するチャンネルの割り付けは、M-864D に付属の M-864D PC ソフトウェアを使ってパソコンで行います。詳細は別冊のソフトウェア取扱説明書をお読みください。

3. アドレスセレクター［ADDRESS］
RC-485V1 のアドレス（0 ～ F）を設定します。
他の壁リモコンと重複しない値を設定します。
アドレス番号は小さい順に 0 ～ 9、A ～ F となっています。

4. データライン接続端子［LINK A、LINK B］
M-864D との通信線を接続します。
通信線には極性があります。M-864D のデータライン接続端子と極性を合わせてください。
ターミナルが 2 つありますが、それぞれ内部で結線されていますので、一方を他の壁リモコンとの接続に使用できます。

5. DC24 V 端子
M-864D からの電源線を接続します。

● リモートコントロールパネル RC-485B8

M-864D と接続し、8 つのボタンによる各種制御を行います。
M-864D とパネルの間は通信を行っており M-864D の動作に応じて表示が変化します。
2 サイズの電工ボックスに組み込むことができます。

［前面］

［側面］

1. 機能ボタン
押すとこのボタンに割り付けられた機能が働きます。
以下の機能を割り付けることができます。
・チャンネル ON/OFF
・EXT VOL ゲイン Up/Down
・ステレオ入力ソース選択
・マトリクスアサイン
・マトリクスゲイン
・プリセットメモリーロード
・リモート接点出力
・外部コマンド送信
機能の割り付けは、M-864D に付属の M-864D PC ソフトウェアを使ってパソコンで行います。詳細は別冊のソフトウェア取扱説明書をお読みください。

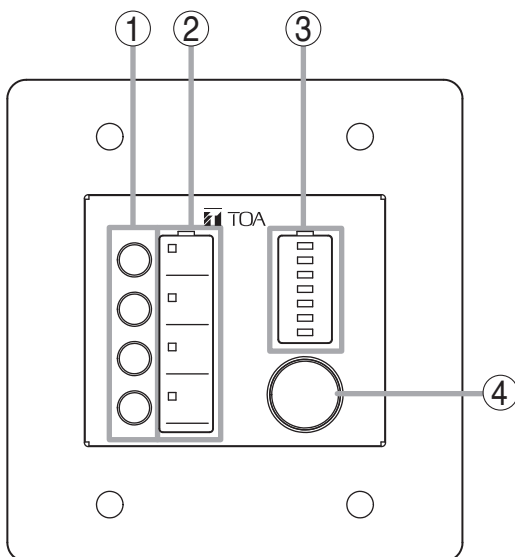
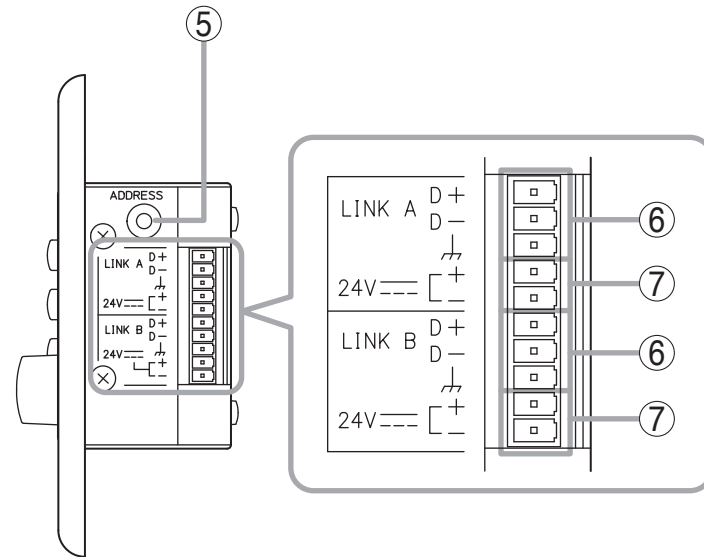
2. 作動表示灯
機能ボタンを押して、割り付けられた機能が有効になっているときに点灯します。

3. アドレスセレクター［ADDRESS］
RC-485B8 のアドレス（0 〜 F）を設定します。
他の壁リモコンと重複しない値を設定します。
アドレス番号は小さい順に 0 〜 9、A 〜 F となっています。

4. データライン接続端子［LINK A、LINK B］
M-864D との通信線を接続します。
通信線には極性があります。M-864D のデータライン接続端子と極性を合わせてください。
ターミナルが 2 つありますが、それぞれ内部で結線されていますので、一方を他の壁リモコンとの接続に使用できます。

5. DC24 V 端子
M-864D からの電源線を接続します。

● リモートコントロールパネル RC-485B4V1

M-864D と接続し、4 つのボタンによる各種制御を行います。
音量調節つまみによって設定された入出力チャンネルの音量制御を行います。
また、設定に従い、1 つのチャンネルの音量設定位置の表示を行います
2 サイズの電工ボックスに組み込むことができます。

［前面］　　　　　　　　　　　　［側面］

1. 機能ボタン

押すとこのボタンに割り付けられた機能が働きます。
以下の機能を割り付けることができます。

- ・チャンネル ON/OFF
- ・EXT VOL ゲイン Up/Down
- ・ステレオ入力ソース選択
- ・マトリクスアサイン
- ・マトリクスゲイン
- ・プリセットメモリーロード
- ・リモート接点出力
- ・外部コマンド送信
- ・EXT VOL ゲイン（チャンネルセレクト）
- ・マトリクスゲイン（クロスポイントセレクト）

機能の割り付けは、M-864D に付属の M-864D PC ソフトウェアを使ってパソコンで行います。詳細は別冊のソフトウェア取扱説明書をお読みください。

2. 作動表示灯

機能ボタンを押して、割り付けられた機能が有効になっているときに点灯します。

3. 音量設定位置表示灯

音量調節つまみで設定されているレベルを表示します。
設定レベルは 7 ポイント LED で表示されます。

4. 音量調節つまみ

EXT VOL、クロスポイントゲイン、REC OUT VOL の音量を調節します。
音量を調節するチャンネルの割り付けは、M-864D に付属の M-864D PC ソフトウェアを使ってパソコンで行います。詳細は別冊のソフトウェア取扱説明書をお読みください。

5. アドレスセレクター［ADDRESS］

RC-485B4V1 のアドレス（0 ～ F）を設定します。
他の壁リモコンと重複しない値を設定します。
アドレス番号は小さい順に 0 ～ 9、A ～ F となっています。

6. データライン接続端子［LINK A、LINK B］

M-864D との通信線を接続します。
通信線には極性があります。M-864D のデータライン接続端子と極性を合わせてください。
ターミナルが 2 つありますが、それぞれ内部で結線されていますので、一方を他の壁リモコンとの接続に使用できます。

7. DC24 V 端子

M-864D からの電源線を接続します。

■ 操作のしかた

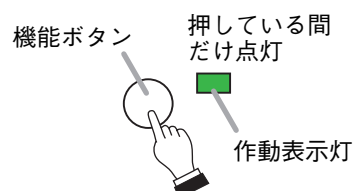
壁リモコンの機能ボタンおよび音量調節つまみは、M-864D PC ソフトウェアにより割り付けた機能により、動作が異なります。

● 機能ボタンの操作のしかた

［機能ボタンに音量調節の機能を割り付けたとき］

EXT VOL（モノラル入力 1 〜 8、ステレオ入力 1 と 2、モノラル出力 1 〜 4、および REC OUT）およびクロスポイントゲインのアップ／ダウンができます。

音量を確認しながら、機能ボタンを何度か押す。

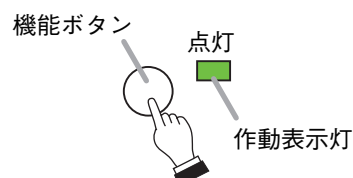
ボタンを押すごとに 1 dB ずつ音量が変化します。

［機能ボタンに音量調節以外の機能を割り付けたとき］

次の機能に割り当てできます。

- ・チャンネル ON/OFF
- ・ステレオ入力ソース選択
- ・マトリクスアサイン
- ・マトリクスゲイン
- ・プリセットメモリーロード
- ・リモート接点出力
- ・外部コマンド送信
- ・EXT VOL ゲイン（チャンネルセレクト）
- ・マトリクスゲイン（クロスポイントセレクト）

（上記 2 項目：RC-485B4V1 のみ）

1 機能ボタンを押す。

ボタンに割り付けられた機能が ON になります。

2 機能ボタンをもう 1 度押す。

ボタンに割り付けられた機能が OFF になります。

メ　モ

他の機器からの操作により、機能ボタンに割り付けられた機能の状態に変化があると、機能ボタンの表示灯はそれを反映します。
例えば、機能ボタンにプリセットメモリー番号 1 の呼び出し機能が割り当てられているときに、M-864D の前面パネル操作によりプリセットメモリー番号 2 が呼び出されると、機能ボタンの表示灯は消灯します。

● 音量調節つまみの操作のしかた

EXT VOL（モノラル入力 1 〜 8、ステレオ入力 1 と 2、モノラル出力 1 〜 4、および REC OUT）およびクロスポイントゲインのアップ／ダウンができます。

［RC-485V1 の操作のしかた］

音量を調節するチャンネルはあらかじめ割り当てられています。

音量を確認しながら、音量調節つまみを回す。

右に回すと音量が大きくなり、左に回すと音量が小さくなります。
音量設定位置表示灯が音量に応じて 7 段階で点灯します。

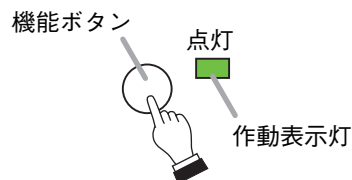
音量設定位置
表示灯
音量調節つまみ

メ　モ

音量設定位置の表示は、割り当てられたチャンネルにより異なります。
- モノラル入出力、ステレオ入力、REC OUT の EXT VOL のとき
  –36 dB（一番下の表示灯のみ点灯）〜 +10 dB（すべて点灯）
- クロスポイントゲインのとき
  –36 dB（一番下の表示灯のみ点灯）〜 0 dB（すべて点灯）

［RC-485B4V1 の操作のしかた］

1 機能ボタンを押して、音量を設定したいチャンネルを選択する。

選択したチャンネルが ON になります。

2 音量を確認しながら、音量調節つまみを回す。

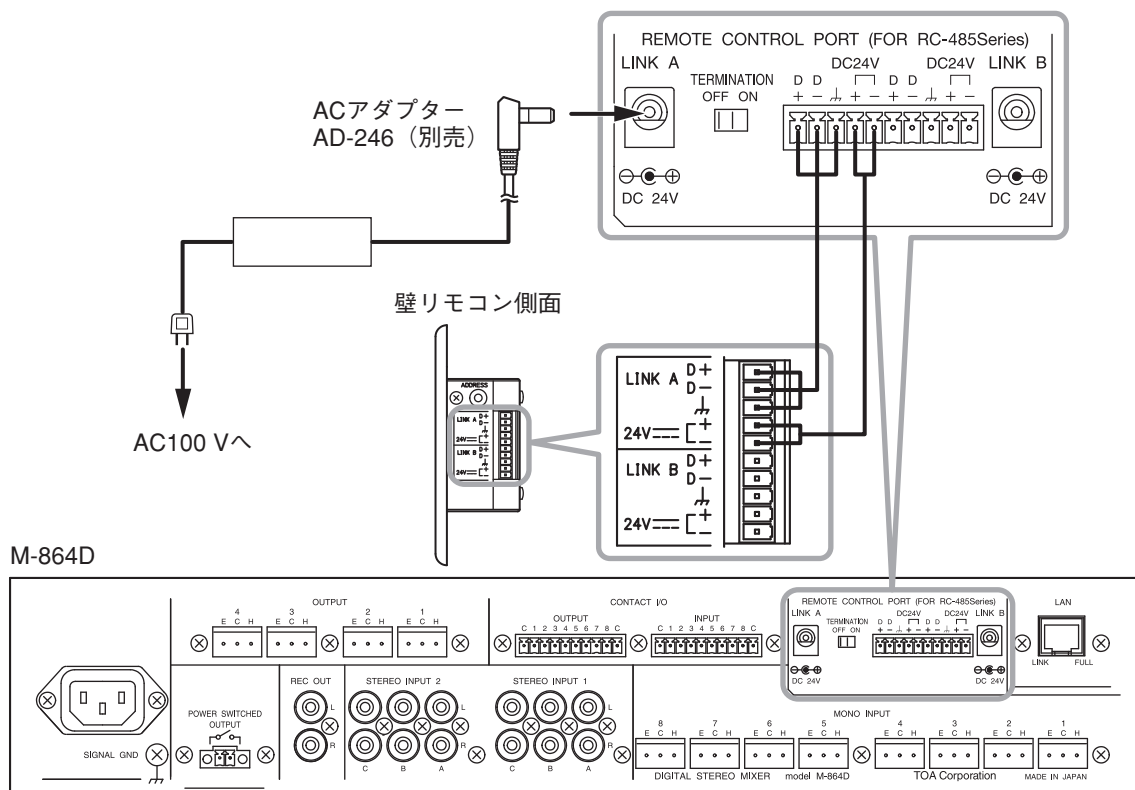
右に回すと音量が大きくなり、左に回すと音量が小さくなります。
音量設定位置表示灯が音量に応じて 7 段階で点灯します。

メ　モ

音量設定位置の表示は、割り当てられたチャンネルにより異なります。
- モノラル入出力、ステレオ入力、REC OUT の EXT VOL のとき
  –36 dB（一番下の表示灯のみ点灯）〜 +10 dB（すべて点灯）
- クロスポイントゲインのとき
  –36 dB（一番下の表示灯のみ点灯）〜 0 dB（すべて点灯）

■ 接続のしかた

- 壁リモコンを接続するときは、RS-485 通信用のデータバスと電源を接続します。この接続には着脱式ターミナルプラグを使用します。（☞ P. 44「着脱式ターミナルプラグの接続のしかた」）
- 壁リモコンに給電するための AC アダプター（別売の AD-246）を M-864D に接続します。
  AC アダプターは LINK A、LINK B それぞれに 1 台必要です。
- 壁リモコンは各系統に 8 台まで接続できます。

> **⚠ 注意**　AC アダプターは、別売の AC アダプター AD-246 を使用してください。
> それ以外のものを使用すると、火災の原因となることがあります。

● 配線の延長距離

壁リモコンの配線距離と接続台数は、配線の方式によって異なります。

［スター配線］

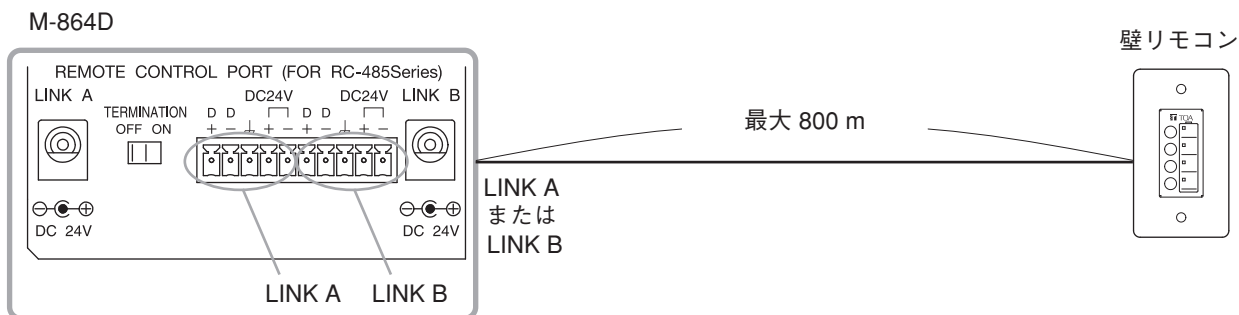
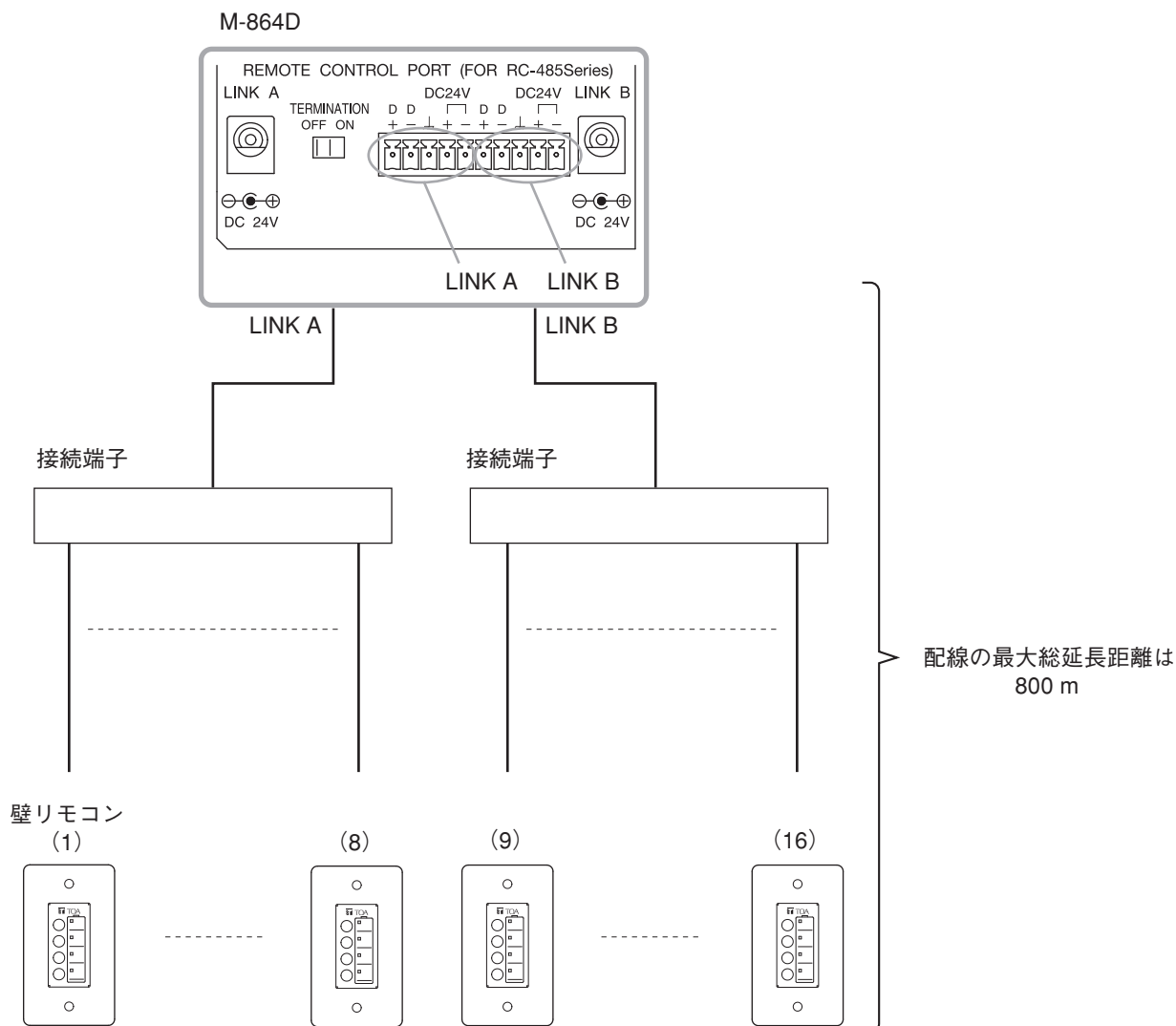
各壁リモコンを M-864D と直接接続する方法です。
各壁リモコンとの総延長距離が 800 m 以内になるように接続してください。

例：M-864D・壁リモコン間の距離の合計が 800 m 以内であれば、1 ～ 16 台まで接続可能
　　各壁リモコンとの総延長距離が 800 m 以内になるように接続してください。

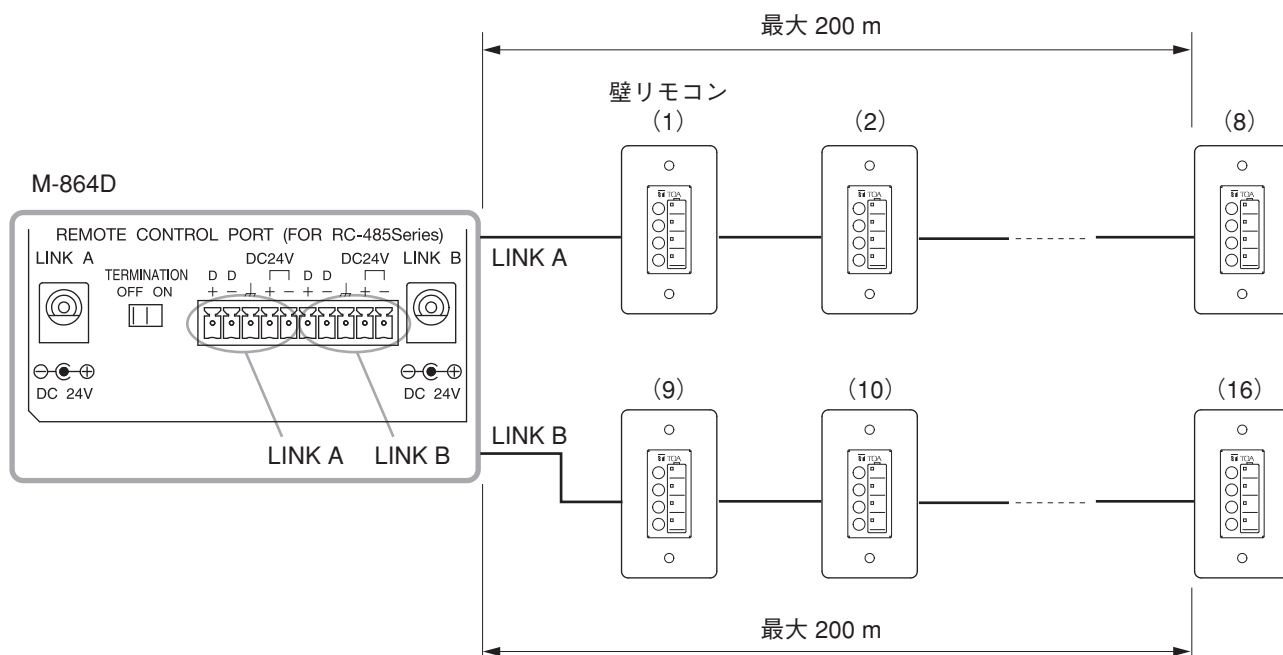
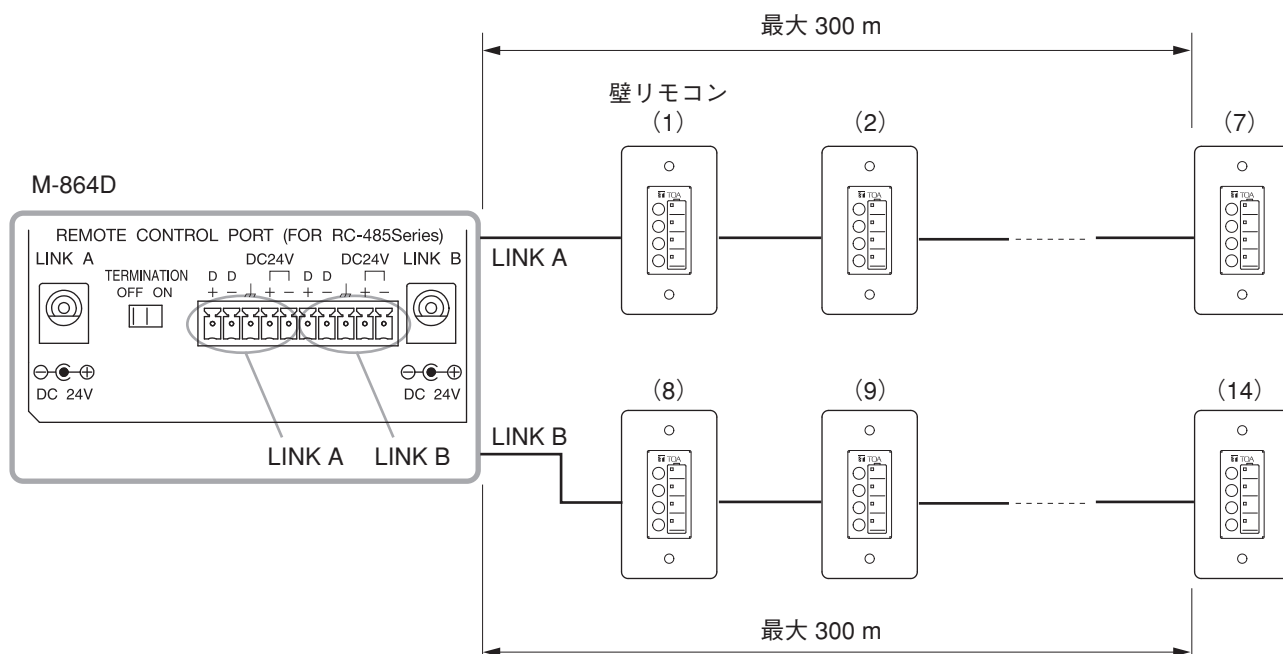
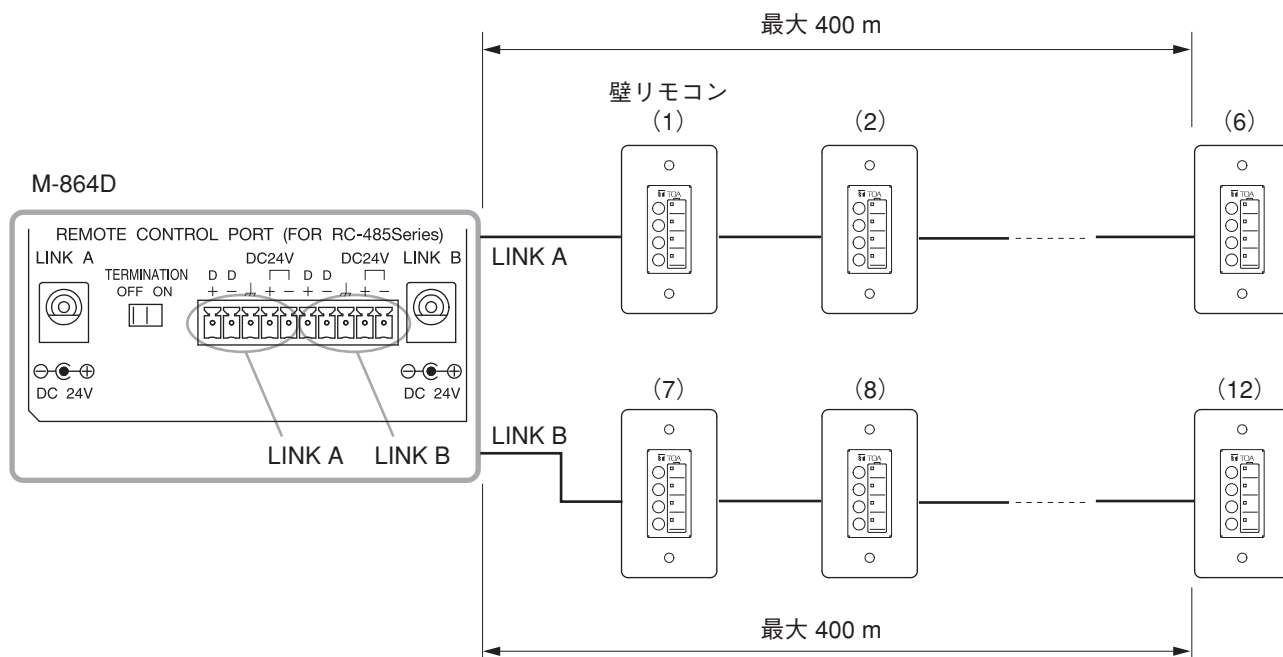
（壁リモコンが1台のとき）

（壁リモコンが16台のとき）

M-864D

REMOTE CONTROL PORT (FOR RC-485Series)
LINK A
LINK B
TERMINATION
OFF ON
DC24V
DC 24V
LINK A
LINK B
LINK A
LINK B
接続端子
接続端子
配線の最大総延長距離は
800 m
壁リモコン
（1）
（8）
（9）
（16）

［デージーチェーン配線］

1 本のライン上に複数の壁リモコンを接続する方法です。
配線距離によって接続できる台数が異なります。

例 1：M-864D・壁リモコン間、また壁リモコン間の距離に関係なく、各系統の延長距離が 200 m の場合、
16 台接続可能（総延長 400 m）

例 2：M-864D・壁リモコン間、また壁リモコン間の距離に関係なく、各系統の延長距離が 300 m の場合、
14 台接続可能（総延長 600 m）

例 3：M-864D・壁リモコン間、また壁リモコン間の距離に関係なく、各系統の延長距離が 400 m の場合、
12 台接続可能（総延長 800 m）

ご注意

- デージーチェーン配線の場合、1 系統当たりの延長距離は 400 m までにしてください。400 m 以上延長すると、壁リモコンが動作しないことがあります。
- スター配線とデージーチェーン配線を組み合わせての配線はしないでください。壁リモコンが動作しないことがあります。

ブロックダイヤグラム

アナログ
デジタル
アナログ
CPU CONTROL
+24V
(–16 dB)
ON OFF
(0 dB ~ 42 dB)
GAIN
MONO INPUT 1
+4 dB* ~ –56 dB*
PHANTOM POWER
PAD
EBA
A/D
SIGNAL
RED
GREEN
ON
FADER
PC VOL
EXT VOL
HPF
TONE
FBS
MONO INPUT 8
+4 dB* ~ –56 dB*
BUS
1 2 3 4
CPU CONTROL
TRIM
HA
STEREO INPUT 1-A
–10 dB*
STEREO INPUT 1-B
–10 dB*
STEREO INPUT 1-C
–10 dB*
STEREO INPUT 2-A
–10 dB*
STEREO INPUT 2-B
–10 dB*
STEREO INPUT 2-C
–10 dB*
ST2 INPUT
(FRONT)
L
R
ST/MONO
ST
PC
PEQ
ARC
D/A
LA
OUTPUT 1
+4 dB*
OUTPUT 2
+4 dB*
OUTPUT 3
+4 dB*
OUTPUT 4
+4 dB*
REC OUT VOL
REC OUT L
–10 dB*
REC OUT R
–10 dB*
* 0 dB = 0.775 V

外観寸法図

単位：mm

(Aから見た図)
482.6
465.6
420
140
A
101.6
177.1
37.7
DIGITAL STEREO MIXER model M-864D
TOA Corporation
MADE IN JAPAN
I N P U T
O U T P U T

仕　様

■ M-864D

項目		仕様
電源		AC100 V、50/60 Hz
消費電力		30 W
周波数特性		20 Hz ～ 20 kHz 、± 1 dB 以内
サンプリング周波数		48 kHz
ダイナミックレンジ		100 dB 以上（JIS-A）
歪率		0.03 % 以下、1 kHz/+4 dB *1 入出力（20 Hz ～ 20 kHz、BPF）
クロストーク		−80 dB 以下、1 kHz
入力		モノラル入力、8 系統、着脱式ターミナルブロック（3P） ファンタム電源（DC+24 V/10 mA：系統ごとに ON/OFF 可） ゲイン設定（系統ごとに設定可） PAD ON：ゲイン最小、+4 dB *1（最大 +24 dB *1）、10 kΩ、電子バランス ゲイン最大、−14 dB *1（最大 +6 dB *1）、10 kΩ、電子バランス PAD OFF：ゲイン最小、−10 dB *1（最大 +10 dB *1）7 kΩ、電子バランス ゲイン最大、−56 dB *1（最大 −36 dB *1）7 kΩ、電子バランス ステレオ入力（L、R）、7 系統（1-A、1-B、1-C、2-A、2-B、2-C、前面） ：−10 dB *1（最大 +10 dB *1）、10 kΩ、RCA ジャック（前面入力はステレオミニジャック） 各入力独立トリムゲイン、− ∞～ 0 dB（前面入力は除く） ※ 1-A（L）、1-B（L）、1-C（L）は各トリムゲイン回路を通過後ミキシング（R も同様） ※ 2-A（L）、2-B（L）、2-C（L）は各トリムゲイン回路を通過後、前面入力（L）とミキシング（R も同様）
出力		4 系統、+4 dB *1（最大 +24 dB *1）（適合負荷 600 Ω以上）、電子バランス、 着脱式ターミナルブロック（3P） REC OUT（L、R）：− 10 dB *1（最大 +10 dB *1）（適合負荷 1 kΩ以上）、 電子バランス、RCA ジャック ゲイン設定可
AD コンバーター		24 bit
DA コンバーター		24 bit
プリセットメモリー		16
信号処理	自動音場補正機能（ARC）	自動音場補正 EQ カーブ生成、4 系統（各出力系統）、各系統独立設定
	ハウリング抑制機能（FBS）	ハウリング抑制フィルター生成 8 系統（各モノラル入力系統）、各系統独立設定
	フィルター	8 系統（各モノラル入力系統）、各系統独立設定、ハイパスフィルター：20 Hz ～ 20 kHz
	トーンコントローラー	BASS ローシェルビングフィルター　：20 ～ 500 Hz ± 15 dB MID パラメトリックイコライザー　：20 Hz ～ 20 kHz ± 15 dB Q：0.267 ～ 69.249 TREBLE ハイシェルビングフィルター：6 ～ 20 kHz ± 15 dB 10 系統（各モノラル入力系統、各ステレオミキシング入力系統）、各系統独立設定
	イコライザー	パラメトリックイコライザー：20 Hz ～ 20 kHz ± 15 dB、Q：0.267 ～ 69.249、 4 系統（各出力系統）
	マトリクス	12 × 4
	クロスポイントゲイン	− ∞～ 0 dB、1 dB ステップ
	オートミュート機能	ステレオ入力部マトリクス、独立制御
機能		入力 PAD（−16 dB）制御、ローカット（カットオフ周波数 100 Hz）制御、 アナログ出力アッテネーター（−6 dB、−12 dB、−18 dB、−24 dB、−36 dB、−42 dB）制御、 システムロック機能、モノミックス機能、調節つまみ× 3

*1 0 dB = 0.775 V

パネル部	入力レベル表示灯	3 ポイント LED 表示、12 系統（各モノラル入力系統、ステレオ 1L、1R、2L、2R）
	出力レベル表示灯	8 ポイント LED 表示、4 系統（各出力系統）
	自動音場測定（ARC）	ARC スイッチ×1、ARC 動作表示灯×1
	ハウリング抑制機能（FBS）	ハウリング抑制スイッチ×8、ハウリング抑制表示灯×8
	ローカットフィルター	ローカットスイッチ×8、ローカット表示灯×8
	サミング出力	モノミックススイッチ×2、モノミックス表示灯×2
	トーン調節	BASS、MID、TREBLE 調節つまみによる設定、10 系統（各モノラル入力系統、ステレオ 1L、1R、2L、2R）
	モノラル入力アナログ設定	ゲイン設定、PAD ON/OFF、ファンタム電源 ON/OFF 調節つまみによる設定、8 系統（各モノラル入力系統）
	ステレオ入力アナログ設定	トリム設定 調節つまみによる設定、6 系統（(1-A、1-B、1-C)、(2-A、2-B、2-C)）
	REC OUT ゲイン設定	ゲイン設定 調節つまみによる設定、2 系統（REC OUT L、REC OUT R）
	プリセット切り換え	プリセットメモリーキー×4、プリセットメモリー表示灯×4
	システムロック	システムロックキー×1、システムロック表示灯×1
	動作状態表示	動作状態表示灯×3
	機能設定部	調節つまみ×3、設定値表示 10 ポイント LED ×3、トーン調節モード表示灯×1、 ゲイン調節モード表示灯×1、トリム調節モード表示灯×1
	アナログフェーダー	入力フェーダー×10、出力フェーダー×4、付属のフェーダーギャングバー使用で 2 本連結可能
制御	接点入力	8 系統、開放電圧：DC24 V、短絡電流 5 mA、着脱式ターミナルブロック（10P）
	接点出力	8 系統、無電圧メイク接点、接点容量：DC24 V/100 mA、着脱式ターミナルブロック（10P）
	電源リモート出力	無電圧メイク接点、接点容量：DC30 V/1 A、着脱式ターミナルブロック（2P） （電源スイッチ連動）
	リモートコントロールパネル	2 系統、最大接続台数：8 台 /1 系統 DC24 V 入力×2、ターミネーションスイッチ×1、着脱式ターミナルブロック（10P） 最大総延長距離（スター配線）　　　：800 m（2 系統合計） 最大延長距離（デイジーチェーン配線）：400 m/1 系統 ※ デイジーチェーン配線では距離により最大接続数は変わります。 ※ スター配線とデイジーチェーン配線の混在は不可。 接続線：シールド付き CPEV 線（データ 1 対十電源線 1 対）または 　　　　シールド付き LAN 用カテゴリー 5 ツイストペアケーブル（CAT5-STP）
	ネットワーク	ネットワーク I/F　　　：10BASE-T/100BASE-TX の 1 系統（自動認識で切り換え） 　　　　　　　　　　：RJ45 コネクター、スイッチングハブを介して接続 ネットワークプロトコル：TCP/IP 接続線　　　　　　　：シールド付き LAN 用カテゴリー 5 以上ツイストペアケーブル（CAT5-STP 以上） 最大延長距離　　　　：100 m（本機ースイッチングハブ間）
使用温度範囲		0 ～ +40℃
使用湿度範囲		90 %RH 以下（ただし結露のないこと）
仕上げ		パネル：アルミ、ヘアライン、黒（マンセル N1.0 近似色） ケース：表面処理鋼板
寸法		482.6（幅）× 177.1（高さ）× 157.2（奥行）mm
質量		5.1 kg

※ 本機の仕様および外観は、改良のため予告なく変更することがあります。

● 付属品

電源コード（2 m）.. 1
着脱式ターミナルプラグ（2P）...................... 1
着脱式ターミナルプラグ（3P）.................... 12
着脱式ターミナルプラグ大（10P）................. 2
着脱式ターミナルプラグ小（10P）................. 1
フェーダーギャングバー*2 4
ラック取付ねじ（平座金付き）5 × 12 4
保護カバー 1
CD（M-864D PC ソフトウェア）.................... 1

*2 2 つのフェーダーを 1 つのフェーダーとしてまとめて操作できる、フェーダー連結用のカバーです。

● 別売品

リモートコントロールパネル：RC-485B4/485V1/485B8/485B4V1
AC アダプター　　　　　　：AD-246

■ RC-485B4

電源	DC24 V（M-864D より供給）
消費電流	50 mA 以下
端子	着脱式ターミナルブロック（10P）
接続線	シールド付 CPEV 線（データ線 1 対十電源線 1 対） シールド付 LAN 用カテゴリー 5 ツイストペアケーブル（CAT5-STP）
操作部	機能ボタン× 4
表示部	作動表示灯（緑色 LED）× 4
使用温度範囲	0 ～ +40℃
使用湿度範囲	35 ～ 80 ％ RH（結露なきこと）
仕上げ	表面処理鋼板、ホワイト（マンセル N8.0 近似色）、塗装
寸法	72（幅）× 127（高さ）× 49.5（奥行）mm
質量	208 g
適合ボックス	JIS C 8340 1 個用スイッチボックス

※ 本機の仕様および外観は、改良のため予告なく変更することがあります。

● 付属品

小ねじ（ボックス取り付け用）M4 × 30 2
パネル取り付け用ねじ 2
着脱式ターミナルプラグ（10P） 1

■ RC-485V1

電源	DC24 V（M-864D より供給）
消費電流	50 mA 以下
端子	着脱式ターミナルブロック（10P）
接続線	シールド付 CPEV 線（データ線 1 対十電源線 1 対） シールド付 LAN 用カテゴリー 5 ツイストペアケーブル（CAT5-STP）
操作部	音量調節つまみ× 1
表示部	音量設定位置表示灯（緑色 LED）
使用温度範囲	0 ～ +40℃
使用湿度範囲	35 ～ 80 ％ RH（結露なきこと）
仕上げ	表面処理鋼板、ホワイト（マンセル N8.0 近似色）、塗装
寸法	72（幅）× 127（高さ）× 57.5（奥行）mm
質量	208 g
適合ボックス	JIS C 8340 1 個用スイッチボックス

※ 本機の仕様および外観は、改良のため予告なく変更することがあります。

● 付属品

小ねじ（ボックス取り付け用）M4 × 30 2
パネル取り付け用ねじ 2
着脱式ターミナルプラグ（10P） 1

■ RC-485B8

電源	DC24 V（M-864D より供給）
消費電流	50 mA 以下
端子	着脱式ターミナルブロック（10P）
接続線	シールド付 CPEV 線（データ線 1 対＋電源線 1 対） シールド付 LAN 用カテゴリー 5 ツイストペアケーブル（CAT5-STP）
操作部	機能ボタン×8
表示部	作動表示灯（緑色 LED）×8
使用温度範囲	0 ～ +40℃
使用湿度範囲	35 ～ 80 ％ RH（結露なきこと）
仕上げ	表面処理鋼板、ホワイト（マンセル N8.0 近似色）、塗装
寸法	120（幅）× 127（高さ）× 50.5（奥行）mm
質量	374 g
適合ボックス	JIS C 8340 2 個用スイッチボックス

※ 本機の仕様および外観は、改良のため予告なく変更することがあります。

● 付属品

小ねじ（ボックス取り付け用）M4 × 30 4
パネル取り付け用ねじ 4
着脱式ターミナルプラグ（10P）.................................. 1

■ RC-485B4V1

電源	DC24 V（M-864D より供給）
消費電流	50 mA 以下
端子	着脱式ターミナルブロック（10P）
接続線	シールド付 CPEV 線（データ線 1 対＋電源線 1 対） シールド付 LAN 用カテゴリー 5 ツイストペアケーブル（CAT5-STP）
操作部	機能ボタン× 4、音量調節つまみ× 1
表示部	作動表示灯（緑色 LED）× 4、音量設定位置表示灯
使用温度範囲	0 ～ +40℃
使用湿度範囲	35 ～ 80 ％ RH（結露なきこと）
仕上げ	表面処理鋼板、ホワイト（マンセル N8.0 近似色）、塗装
寸法	120（幅）× 127（高さ）× 58.5（奥行）mm
質量	374 g
適合ボックス	JIS C 8340 2 個用スイッチボックス

※ 本機の仕様および外観は、改良のため予告なく変更することがあります。

● 付属品

小ねじ（ボックス取り付け用）M4 × 30 4
パネル取り付け用ねじ 4
着脱式ターミナルプラグ（10P）.................................. 1

商品の価格・在庫・修理などのお問い合わせ、およびカタログのご請求については、取り扱い店または最寄りの営業所へお申し付けください。

TOA お客様相談センター
商品の内容や組み合わせ、設置方法などについての技術的なお問い合わせにお応えします。
受付時間 9:00 ～ 17:00（土日、祝日除く）

フリーダイヤル **0120-108-117**
ナビダイヤル 0570-064-475（有料）
FAX 0570-017-108（有料）
※ PHS、IP 電話からはつながりません。

最寄りの営業所については、下記のホームページをご確認ください。

TOA ホームページ http://www.toa.co.jp/

133-02-00010-01